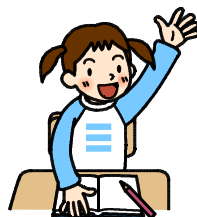


平成22年度 「みやざき小中学校学力・意識調査」 分析結果



目次

I	調査の概要	
1	実施の概要	1
2	学力調査の結果	2
3	意識調査の結果	3
4	分析の概要	4
II	各教科の分析結果	
II-1	小学校 各教科の分析	5
1	小学校5年：国語	5
2	小学校5年：社会	9
3	小学校5年：算数	13
4	小学校5年：理科	17
II-2	中学校 各教科の分析	21
1	中学校2年：国語	21
2	中学校2年：社会	25
3	中学校2年：数学	29
4	中学校2年：理科	33
5	中学校2年：英語	37
III	意識調査の分析結果	
III-1	小学校	41
	「授業」に関すること	41
	「学習」に関すること	42
	「生活」に関すること	43
	「自分」に関すること	44
III-2	中学校	45
	「授業」に関すること	45
	「学習」に関すること	46
	「生活」に関すること	47
	「自分」に関すること	48
※付録	数値についてもっと知りたい！	49
※付録	A層～D層についてもっと知りたい！	50

I 調査の概要

1 実施の概要

調査目的	県内の小・中学校、中等教育学校（前期課程）及び特別支援学校の小・中学部における学力の実態を把握・分析し、その結果をもとに、児童生徒の学力向上に総合的に取り組む。
実施日	平成22年4月20日（火）・21日（水）
調査対象校	市町村立小学校 245校（小学校 7校 対象児童なし） 市町村立中学校 134校（中学校 1校 対象生徒なし） 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 宮崎大学教育文化学部附属小・中学校 特別支援学校 2校（2小学部・1中学部） (小学校 10,821人、中学校 10,918人)
対象学年	小学校（小学部）第5学年
	中学校（中学部）第2学年
調査実施 対象教科等	<学力調査> ○ 小学校（小学部）第5学年 国語、社会、算数、理科 ○ 中学校（中学部）第2学年 国語、社会、数学、理科、英語 ※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。
	<意識調査> ○ 小学校（小学部）第5学年、中学校（中学部）第2学年 ※ 学習に対する意欲や取組の状況、学習習慣や学習を支える基礎となる体験の状況、読書の状況等について、アンケート方式で調査を実施し、学力調査結果とのクロス分析を行う。

2 学力調査の結果

■ 小学校第5学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
			A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	61.7	29.0	44.5	21.9	4.7
	社会	60.0	25.4	49.5	20.6	4.4
	算数	64.3	37.0	42.6	17.3	3.1
	理科	59.1	23.0	50.5	22.7	3.8
達成率	国語	37.2	100.0	18.4	0.0	0.0
	社会	25.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	算数	37.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	理科	29.6	100.0	13.1	0.0	0.0

■ 中学校第2学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
			A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	55.9	21.6	43.3	29.0	6.1
	社会	49.0	15.9	33.4	36.5	14.2
	数学	54.6	25.2	34.8	25.0	15.0
	理科	45.7	11.0	32.4	37.1	19.5
	英語	49.0	11.2	35.3	42.4	11.2
達成率	国語	33.3	100.0	27.1	0.0	0.0
	社会	19.3	100.0	10.2	0.0	0.0
	数学	37.2	100.0	34.6	0.0	0.0
	理科	18.8	100.0	23.9	0.0	0.0
	英語	18.5	100.0	20.8	0.0	0.0

※ 到達度とは、各所属の児童生徒が正答及び準正答である問題数の割合を示したものである。「平均到達度」とは、児童生徒の到達度を平均した数値を示したものである。

※ 学習到達度調査におけるA層・B層・C層・D層は、県内の児童生徒の各調査教科における最高点（到達度）と最低点（到達度）の範囲を上位の得点から4等分して表示したものである。

※ 「全県の階層に含まれる児童生徒の割合」とは、県全体の各階層に、所属の児童生徒がそれぞれ何%含まれているかを示したものである。

※ 「達成率」とは、到達度が目標値に達している児童生徒の割合を示したものである。目標値とは、各教科、各問題ごとに設定されためざす値（設定通過率）の平均を示したものである。

※ A層～D層については、意識調査と学力の関連をみるときに有効である。



3 意識調査の結果

■ 小学校第5学年の肯定的回答の割合

□ 学習意識調査

(%)

	全県	全県の階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合			
		A層	B層	C層	D層
授業に関すること	86.4	90.9	87.1	80.6	72.2
学習に関すること	56.3	59.2	56.2	53.6	49.9
生活に関すること	68.6	72.5	68.7	64.3	59.0
自分に関すること	86.8	90.9	87.6	81.2	71.7

■ 中学校第2学年の肯定的回答の割合

□ 学習意識調査

(%)

	全県	全県の階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合			
		A層	B層	C層	D層
授業に関すること	78.3	85.4	81.4	76.1	66.7
学習に関すること	55.3	61.1	58.7	53.0	43.8
生活に関すること	57.6	61.9	59.5	55.9	51.5
自分に関すること	82.2	87.8	84.6	80.4	72.8

※ 肯定的回答の割合

学習意識調査におけるA層・B層・C層・D層は、全調査教科(小学校4教科、中学校5教科)の合計到達度における最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を上位から4等分して表示したものであり、各層の児童生徒が学習意識調査において、肯定的に回答した人数の割合を表している。

4 分析の概要

■ 学力に関する分析

□ 小学校の社会、理科、中学校の社会、理科、英語に課題がみられる。

小学校の社会、理科について、目標値に到達した受検者の割合（＝達成率）が低い。中学校の社会、理科、英語についても同様である。これらの教科については、設問別通過率の低い問題を分析し、児童生徒のつまずきの原因を把握して授業改善の手立てを講ずるなど、今後の指導に生かすことが大切である。

□ 小学校と中学校で、全県の階層に含まれる児童生徒の割合にばらつきがみられる。

小学校の全教科について、全県の階層に含まれる児童の割合を見ると、B層に含まれる児童の割合が高いのに対して、中学校では国語、数学の2教科について、B層に含まれる生徒の割合が高い。また、B層の達成率は中学校の方が全教科において高い。小・中学校ともに、各教科の到達度分布状況を細かく分析し、特にC層、D層の児童生徒に対して、より一層個に応じた指導を行うことが大切である。

■ 意識に関する分析

□ 「学習」と「生活」に関する項目に課題がみられる。

小・中学校ともに、肯定的な回答をした割合が低いのは、昨年度と同様、「学習」及び「生活」に関する項目である。家庭学習の仕方や学校以外での過ごし方など、学校以外での学習や生活に対して、家庭と協力して指導を行うことが大切である。

□ 小学校及び中学校の「学習」に関する項目に課題がみられる。

昨年度と比較すると、小学校の「学習」に関する肯定的な回答が4.6ポイント下回り、中学校では3.9ポイント下回っている。小学校では、「生活」に関する項目以外、全ての項目で、肯定的な回答をした児童は昨年度を下回っている。中学校では、「学習」に関する項目以外、全ての項目で、昨年度よりも肯定的な回答をした生徒の割合は増えている。A層とD層の差も大きくなっており、学校や家庭での学習の仕方、させ方など、具体的な指導が大切である。

■ 学力と意識の関係分析

□ 小学校では「授業」と「自分」、中学校では「授業」と「学習」に関する項目で、学力との関連がみられる。

意識調査において、A層とD層の肯定的な回答に大きな差がみられる項目は、学力との関連が深いことを表している。小・中学校ともに、学力が高いと意識も肯定的である傾向はみられるが、特に小学校では「授業」、「自分」、中学校では「授業」、「学習」に関する項目で学力との関連が深い。小・中学校ともに、「授業」に関する項目で、学力と意識との関連がみられる。

□ 小学校と中学校で、肯定的な回答をした児童生徒の割合と学力に関連がみられる。

全県の階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合をみると、小学校の「学習」に関する項目以外、小・中学校ともに、全ての項目で、県の平均到達度がB層からC層の間にあり、学力との関連がみられる。このことから、小学校では、特に、下位層の児童に対して、自分の将来への夢や希望をもたせたり、自己肯定感をもたせたりする指導を行うことが大切である。また、中学校では、下位層の生徒に対して、学習の習慣や方法を身に付けさせる指導を行うことが大切である。

Ⅱ 各教科の分析結果

Ⅱ-1 小学校 各教科の分析

1 小学校5年:国 語

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

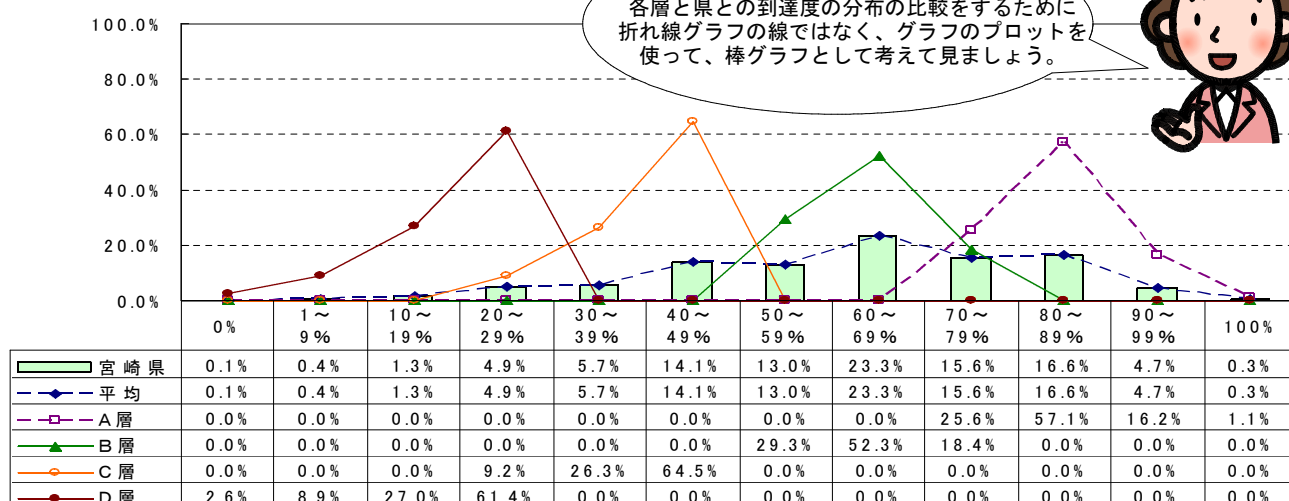
観 点 ・ 領 域 ・ 分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
平均到達度	観 点	教 科 全 体	61.7	A 層	B 層	C 層	D 層
		読 む 能 力	71.5	83.3	62.7	40.2	18.2
		言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	61.9	81.2	64.1	41.3	17.9
		話 す ・ 聞 く 能 力	31.5	68.7	22.9	5.9	1.3
		書 く 能 力	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6
	領 域	読 む こ と	71.5	81.2	64.1	41.3	17.9
		言 語 事 項	61.9	81.2	64.1	41.3	17.9
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	31.5	68.7	22.9	5.9	1.3
	分 類	書 く こ と	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6
		基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	65.3	83.9	67.6	45.0	21.2
		課 題 を 解 決 す る 力	59.8	84.2	59.8	36.9	15.7
		活 用 す る 力	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6
達成率	観 点	教 科 全 体	37.2	100.0	18.4	0.0	0.0
		読 む 能 力	55.1	96.4	57.2	8.0	0.0
		言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	33.5	80.8	22.7	0.1	0.0
		話 す ・ 聞 く 能 力	27.6	64.2	18.2	3.7	0.6
		書 く 能 力	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6
	領 域	読 む こ と	55.1	96.4	57.2	8.0	0.0
		言 語 事 項	33.5	80.8	22.7	0.1	0.0
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	27.6	64.2	18.2	3.7	0.6
	分 類	書 く こ と	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6
		基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	36.1	85.3	25.6	0.1	0.0
		課 題 を 解 決 す る 力	43.3	93.5	35.4	2.1	0.0
		活 用 す る 力	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6

目標値	観 点	教 科 全 体	71.8
		読 む 能 力	72.2
		言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	72.7
		話 す ・ 聞 く 能 力	70.0
		書 く 能 力	60.0
	領 域	読 む こ と	72.2
		言 語 事 項	72.7
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	70.0
	分 類	書 く こ と	60.0
		基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	74.3
		課 題 を 解 決 す る 力	69.5
		活 用 す る 力	60.0



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

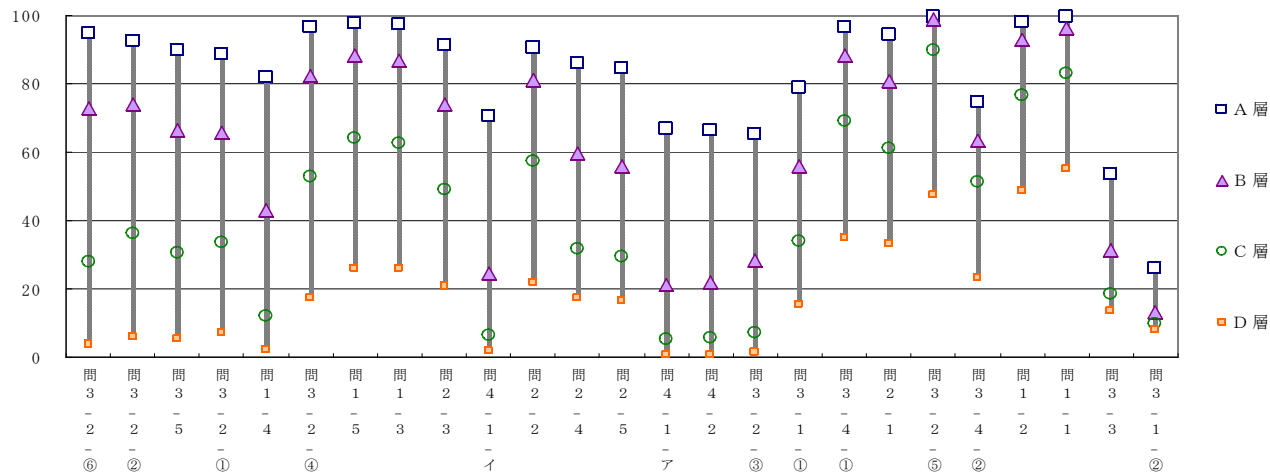
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	心情の理解	読むこと	読む能力	ア	92.4	99.6	96.3	82.9	55.1	44.5	0.1
2	1	2	表現の理解	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	88.7	98.1	92.7	76.6	48.5	49.6	0.1
3	1	3	内容の理解	読むこと	読む能力	イ	81.8	97.5	86.8	62.7	26.0	71.5	2.3
4	1	4	内容の理解	読むこと	読む能力	イ	45.6	81.7	43.2	12.0	2.4	79.3	9.6
5	1	5	心情の理解	読むこと	読む能力	イ	82.8	97.6	88.3	64.0	26.0	71.6	1.6
6	2	1	接続語の選択	読むこと	読む能力	ア	78.2	94.4	80.8	61.1	33.2	61.2	0.2
7	2	2	内容の理解	読むこと	読む能力	イ	76.0	90.7	81.3	57.3	21.9	68.8	4.7
8	2	3	文章構成の理解	読むこと	読む能力	イ	71.0	91.5	73.8	48.9	20.7	70.8	1.4
9	2	4	適語補充	読むこと	読む能力	イ	59.1	85.9	59.5	31.8	17.5	68.4	1.1
10	2	5	内容の理解	読むこと	読む能力	イ	56.7	84.7	55.9	29.4	16.7	68.0	1.9
11	3	1①	筆順の理解	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	55.8	79.0	55.8	33.8	15.5	63.5	0.3
12	3	1②	筆順の理解	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	16.0	26.2	13.3	9.7	8.0	18.2	0.4
13	3	2①	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	62.6	88.7	65.7	33.6	7.0	81.7	9.5
14	3	2②	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	67.9	92.5	74.1	36.2	6.0	86.5	6.6
15	3	2③	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	33.1	65.4	28.3	7.0	1.4	64.0	23.6
16	3	2④	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	76.9	96.5	82.3	52.7	17.3	79.2	6.7
17	3	2⑤	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	94.8	99.8	98.9	89.9	47.7	52.1	2.1
18	3	2⑥	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	66.1	94.9	72.7	27.9	3.8	91.1	11.8
19	3	3	漢字辞典の用法	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	34.2	53.4	31.5	18.4	13.7	39.7	1.3
20	3	4①	修飾・被修飾の関係	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	84.0	96.7	88.2	69.2	35.0	61.7	1.9
21	3	4②	修飾・被修飾の関係	言語事項	言語についての知識・理解・技能	イ	62.1	74.8	63.3	51.2	23.5	51.3	2.1
22	3	5	ローマ字の知識	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	62.6	89.7	66.6	30.6	5.4	84.3	8.4
23	4	1ア	話し合いの進め方	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	イ	30.0	66.8	21.2	5.4	0.8	66.0	5.3
24	4	1イ	話し合いの進め方	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	イ	33.0	70.7	24.6	6.5	1.8	68.9	6.4
25	4	2	資料の情報をもとにした文章の記述	書くこと	書く能力	ウ	30.2	66.3	21.9	5.5	0.6	65.7	14.0

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 話す・聞く能力** — 適切な資料を用いながら、話題に沿って話し合うことができるかどうかをみる問題。
(例) ■話合いの内容を正しくとらえる。
- 書く能力** — 資料の情報を基に条件に応じて自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題。
(例) ■資料の情報から自己の生活に関連した論理的な文章を書く。
- 読む能力** — 書かれている内容を理解するための基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■叙述を基に登場人物の心情をとらえたり、内容を正しく読み取ったりする。
■文脈から適切な語句をとらえる。
- 言語についての知識・理解・技能** — 言語事項に関する基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりする。
■漢字辞典の利用方法を理解する。

■ 課題等

話すこと・聞くこと

- ◆ 話すこと・聞くことの平均到達度は31.5%で、領域の目標値70.0%をかなり下回っており、資料を基に話合いの内容を正しくとらえることに課題がある。

書くこと

- ◆ 書くことの平均到達度は30.2%で、領域の目標値60.0%をかなり下回っており、複数の資料から情報を読み取り、自分の考えを書くことに課題がある。中学校でも同様の傾向がみられる。

読むこと

- ◇ 省略された会話に込められた登場人物の心情をとらえる問題（大問1小問1）は、設問別通過率92.4%で、領域の目標値72.2%をかなり上回っている。
- ◇ 叙述を基に内容を正しくとらえ、指定された文字数で文章中から抜き出す問題（大問1小問3）は、設問別通過率81.8%で、領域の目標値72.2%を上回っている。
- ◆ 叙述を基に内容を正しくとらえ、指定された二つの言葉を使って記述する問題（大問1小問4）は、設問別通過率45.6%で、領域の目標値72.2%をかなり下回っている。読み取った内容を文章にして書き表すことに課題がある。
- ◆ 説明的な文章において、要旨をとらえることに課題がある。
- ◆ 例示された言葉の意味を理解して、文脈に応じた適切な語句をとらえることに課題がある。

言語事項

- ◇ 漢字を正しく読む問題（大問3小問2）の設問別通過率平均は79.3%で、領域の目標値72.7%を上回っている。
- ◆ 昨年度に引き続き、漢字辞典の使い方を理解することに課題がある。
- ◆ 漢字を書く問題（大問3小問2）については、訓読みの送り仮名を書くことに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 図表やグラフなどから読み取ったことを基に話し合ったり聞いたりする言語活動の充実
 - ・ 話し合い活動を行うに当たっては、テーマを明確に示し、テーマと関連する図表やグラフなどの資料から分かったことや自分が考えたことを述べ合うようにさせることが大切である。また、友だちの読み取ったことを聞き、その妥当性を判断したり、自分の読み取ったこととの共通点や相違点を見付けたりして、自分の考えに生かすことができるように指導することが大切である。

書くこと

- 目的や意図に応じて複数の資料を関係付け、自分の考えを書く言語活動の充実
 - ・ 資料を構成している内容や見出しに着目して必要な情報を取り出したり、資料から読み取った情報を組み合わせたりする活動を通して、自分の考えを根拠に基づいて書かせることが大切である。
 - ・ 記述の際には、具体的な事実と感想や意見、また、理由と根拠などを区別して、それらの関係をカードに分類したり、ノートに構造的にまとめたりするなどして、具体的に指導することが大切である。

読むこと

- 叙述を基に登場人物の相互関係や心情・場面の移り変わりを把握する言語活動の充実
 - ・ 登場人物の行動や会話、情景描写に注意しながら、登場人物同士の関係や心情の変化を読み取らせることが大切である。
 - ・ 「読むこと」の領域の学習指導を行うに当たっては、1 単位時間の中に読み取った内容を条件に応じて書くような活動を設定し、理解をより一層深める指導を行うことが大切である。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえる言語活動の充実
 - ・ 文章の内容を的確に押さえるために、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに注意して読み進めていくことが大切である。
 - ・ 要旨をとらえるためには、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読むという、中学年までの学習内容を活用した「読むこと」の指導を行うことが大切である。

言語事項

- 文脈の中での漢字の使われ方が正しく理解できるような指導の充実
 - ・ 漢字の形と読みを正しく理解させ、音読みと訓読みが文脈の中で使い分けられるように指導することが大切である。
- 漢字辞典等を活用する機会を図るような指導の充実
 - ・ 文章の中で漢字を正しく書かせたり読ませたりするとともに、漢字辞典等を活用する機会を多く設定して習慣化を図ったり、和語と漢語を意識しながら漢字の由来や特質について学んだりする指導を行うことが大切である。

2 小学校5年:社 会

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

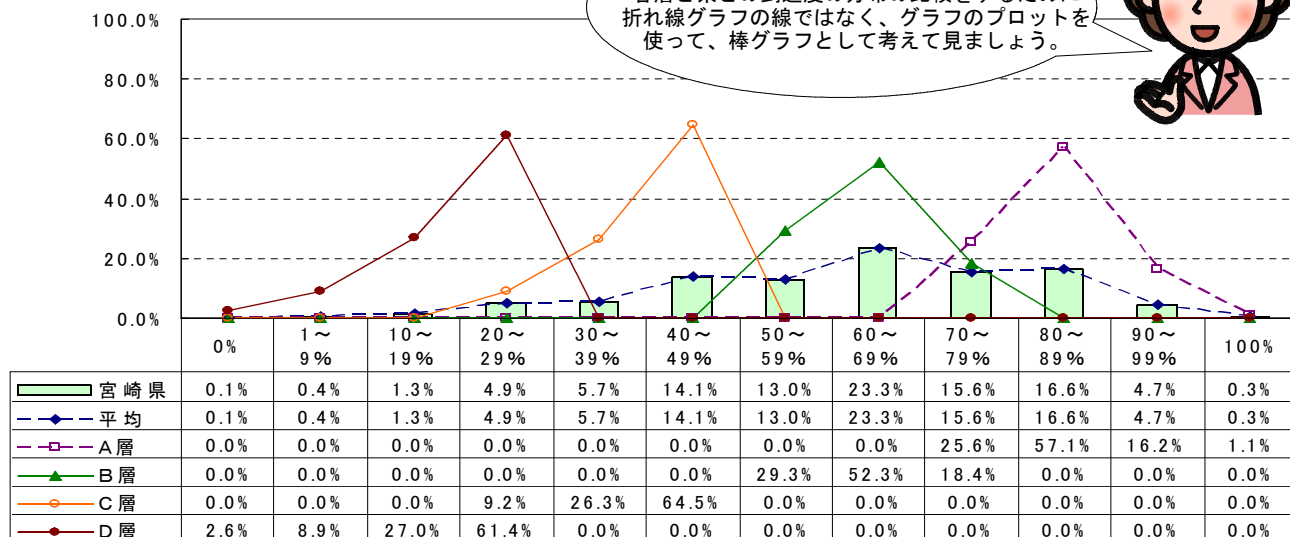
観 点 ・ 領 域 ・ 分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	60.0	82.1	61.7	38.5	14.4
		資 料 活 用	66.5	85.3	70.0	45.9	16.0
		知 識 ・ 理 解	54.3	78.0	54.8	32.7	13.4
		思 考 ・ 判 断	57.3	81.6	58.1	34.9	13.6
	領 域	県 の 様 子	62.9	87.4	65.1	37.9	13.3
		地 域 の 先 人	39.0	64.9	36.2	19.9	10.5
		人 々 の 生 活	51.1	68.7	52.2	34.4	15.9
		身 近 な 地 域	69.4	88.5	71.9	50.2	21.0
		生 産 の 仕 事	52.6	74.0	51.9	35.5	15.9
		安 全 を 守 る 工 夫	72.1	92.1	77.0	47.9	13.9
		外 国 と の か か わ り	39.5	71.4	37.8	12.2	1.6
		基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	58.6	79.9	60.6	37.2	13.4
	分 類	課 題 を 解 決 す る 力	62.4	83.9	63.4	42.9	18.1
		活 用 す る 力	59.7	84.3	61.7	35.0	11.5
達成率	観 点	教 科 全 体	25.4	100.0	0.0	0.0	0.0
		資 料 活 用	31.2	75.3	24.0	0.7	0.0
		知 識 ・ 理 解	15.4	46.3	7.2	0.1	0.0
		思 考 ・ 判 断	29.4	81.9	17.3	0.1	0.0
	領 域	県 の 様 子	32.7	77.0	25.7	2.0	0.0
		地 域 の 先 人	14.8	36.2	10.4	2.0	1.0
		人 々 の 生 活	50.6	76.7	52.0	24.9	6.1
		身 近 な 地 域	46.6	85.5	45.2	12.1	0.2
		生 産 の 仕 事	35.8	73.2	31.0	8.7	1.9
		安 全 を 守 る 工 夫	52.5	89.3	55.1	11.9	0.4
		外 国 と の か か わ り	21.9	52.2	16.2	3.0	0.0
		基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	19.8	62.9	7.6	0.0	0.0
	分 類	課 題 を 解 決 す る 力	30.8	79.9	20.8	0.9	0.0
		活 用 す る 力	27.1	69.5	18.5	1.0	0.0

目標値	観 点	教 科 全 体	74.4
		資 料 活 用	75.8
		知 識 ・ 理 解	76.3
		思 考 ・ 判 断	71.7
	領 域	県 の 様 子	74.3
		地 域 の 先 人	81.7
		人 々 の 生 活	66.7
		身 近 な 地 域	74.2
		生 産 の 仕 事	73.8
		安 全 を 守 る 工 夫	79.3
		外 国 と の か か わ り	60.0
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	75.7
		課 題 を 解 決 す る 力	74.0
		活 用 す る 力	72.1



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

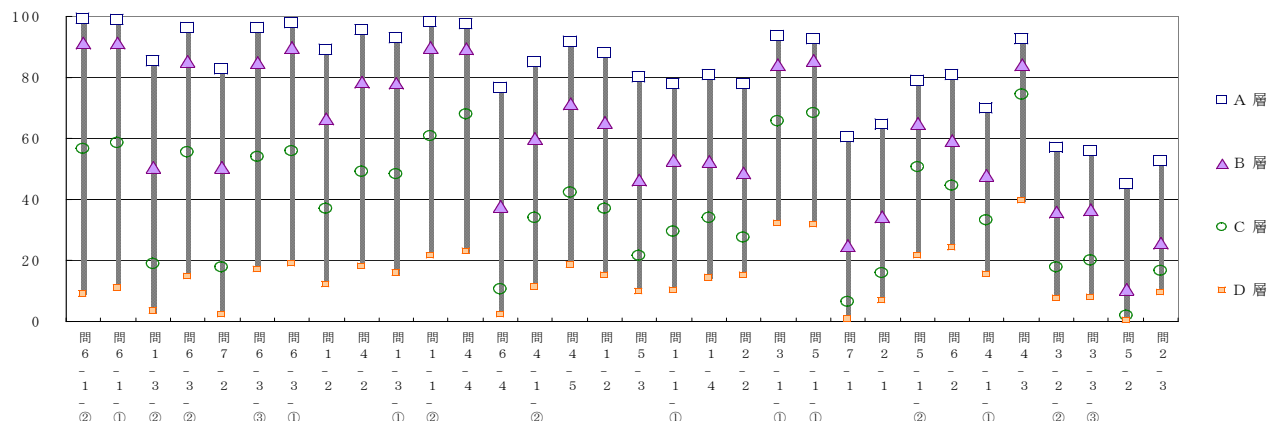
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し 番号	大問	小問											
1	1	1①	県の特徴	県の様子	資料活用	ア	52.6	77.8	53.0	29.6	10.2	67.6	4.3
2	1	1②	県の特徴	県の様子	知識・理解	ア	82.9	98.0	90.0	60.6	21.5	76.5	5.4
3	1	2	県の特徴	県の様子	知識・理解	ア	62.9	87.8	65.1	37.0	15.0	72.8	3.8
4	1	2	県の特徴	県の様子	知識・理解	ア	63.8	89.2	66.6	37.1	12.1	77.1	3.9
5	1	3①	県の特徴	県の様子	資料活用	ア	73.0	92.9	78.2	48.4	15.9	77.0	2.5
6	1	3②	県の特徴	県の様子	資料活用	イ	50.8	85.1	50.7	18.8	3.5	81.6	4.4
7	1	4	県の特徴	県の様子	思考・判断	イ	54.1	80.8	52.4	33.9	14.4	66.4	8.4
8	2	1	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	知識・理解	ア	37.0	64.7	34.3	15.8	6.9	57.8	8.4
9	2	2	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	知識・理解	ア	50.2	77.8	48.7	27.4	15.2	62.6	7.9
10	2	3	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	知識・理解	ア	29.8	52.3	25.6	16.6	9.4	42.9	8.8
11	3	1	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	ア	80.4	93.4	84.1	65.6	31.9	61.5	0.5
12	3	2	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	ア	36.2	56.9	35.9	17.6	7.7	49.2	0.9
13	3	3	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	ア	36.8	55.7	36.5	20.1	8.1	47.6	1.4
14	4	1①	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	ア	49.0	69.8	48.0	33.1	15.4	54.4	6.2
15	4	1②	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	ア	58.8	84.8	60.1	34.0	11.3	73.5	5.8
16	4	2	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	イ	74.0	95.3	78.5	48.9	18.2	77.1	2.2
17	4	3	地図の読み取り	身近な地域	思考・判断	イ	82.3	92.4	84.2	74.5	39.5	52.9	1.8
18	4	4	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	イ	84.1	97.2	89.5	68.1	23.0	74.2	2.1
19	4	5	地図の読み取り	身近な地域	思考・判断	イ	68.2	91.8	71.2	42.4	18.6	73.2	3.4
20	5	1①	人々の生産と販売	生産の仕事	資料活用	イ	81.3	92.4	85.5	68.2	31.7	60.7	3.1
21	5	1②	人々の生産と販売	生産の仕事	資料活用	イ	63.6	78.7	64.9	50.7	21.5	57.2	3.7
22	5	2	人々の生産と販売	生産の仕事	思考・判断	イ	17.0	44.8	10.6	1.9	0.2	44.6	29.0
23	5	3	人々の生産と販売	生産の仕事	思考・判断	イ	48.3	80.1	46.6	21.4	10.0	70.1	10.3
24	6	1①	資料活用	安全を守る工夫	資料活用	ア	82.9	98.8	91.4	58.5	10.9	87.9	3.8
25	6	1②	資料活用	安全を守る工夫	資料活用	ア	82.5	99.1	91.4	56.6	9.0	90.1	3.6
26	6	2	資料活用	安全を守る工夫	思考・判断	ウ	60.0	80.6	59.1	44.7	24.2	56.4	4.1
27	6	3①	資料活用	安全を守る工夫	思考・判断	ウ	81.7	97.8	89.8	55.7	19.0	78.8	2.8
28	6	3②	資料活用	安全を守る工夫	思考・判断	ウ	78.7	96.1	85.2	55.3	14.8	81.3	3.7
29	6	3③	資料活用	安全を守る工夫	思考・判断	ウ	78.3	96.1	84.8	54.1	16.9	79.2	3.7
30	6	4	資料活用	安全を守る工夫	思考・判断	ウ	40.4	76.5	37.6	10.7	2.3	74.2	28.5
31	7	1	資料活用	外国とのかかわり	思考・判断	ウ	29.1	60.3	25.0	6.5	0.8	59.5	13.8
32	7	2	資料活用	外国とのかかわり	思考・判断	ウ	49.8	82.5	50.5	17.9	2.3	80.2	18.4

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 資料活用** — 社会的事象を観察、調査したり、複数の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめることができるかどうかをみる問題。
- (例) ■地図やグラフを正しく読み取る。
■資料から考察し、文章で表現する。
- 知識・理解** — 社会的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
- (例) ■都道府県の位置及び宮崎県の特徴や偉人について理解する。
■主な地図記号を理解する。
- 思考・判断** — 社会的事象の特徴や相互の関連について考えることができるかどうかをみる問題。
- (例) ■資料から昔と今のごみ処理について考える。
■資料から見つけた根拠を基に自分の考えをもち、説明する。

■ 課題等

県の様子

- ◆ 宮崎県の特徴を読み取る問題（大問1小問3②～④）は、領域中最も低い設問別通過率50.8%で、観点（資料活用）の目標値75.8%をかなり下回っている。資料の読み取りに課題がある。

地域の先人

- ◆ 本年度の設問別通過率平均は39.0%となっており、昨年度の平均68.8%と比較するとかなり下回っている。郷土の偉人に関する知識・理解に課題がある。

人々の生活

- ◆ 市の人口や水の使用量の増減等、グラフの変化を読み取ること（大問3小問2、3）に課題がある。

身近な地域

- ◇ 地図の読み取りに関する問題（大問4）は、設問別通過率平均69.4%で、昨年度の平均58.0%からかなり上がっている。
- ◆ 地図記号の問題は、領域の目標値74.2%をかなり下回っている。

生産の仕事

- ◆ 資料から人々の生産の工夫について答える問題（大問5小問2）は、設問別通過率17.0%で、全設問の中で最も低い。資料から根拠を基に説明することに課題がある。

安全を守る工夫

- ◇ グラフを正しく読み取る問題（大問6小問1）は設問別通過率平均82.7%で、観点（資料活用）の目標値75.8%を上回っている。

外国とのかかわり

- ◆ 資料から自分の考えをもち、その考えに適した資料を選択した上で、根拠に基づいて自分の考えを述べることに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

県の様子

○ 宮崎県の位置関係や産業などの様子を読み取る学習を重視

- ・ 宮崎県の概要や特色をとらえさせる際に、地図や資料を活用し、十分に時間を設けて児童に読み取らせることが大切である。

地域の先人

○ 地域の発展に尽くした先人の働きについての学習を重視

- ・ 地域にある資料館等を訪ねたり、図書館にある郷土資料を利用したりして、郷土の偉人が行ったことについて、具体的に調べる学習を充実させることが大切である。

人々の生活

○ 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理の学習では具体的な資料の活用を重視

- ・ 飲料水、電気、ガスの使用量やその変化を、グラフを使って学習する際に、グラフから読み取ることができる全体的な傾向や増減に気付かせるとともに、およそ何倍に変化しているかなど、グラフを多面的に読み取る指導を行う必要がある。

身近な地域

○ 地図（絵地図）の活用を重視

- ・ 身近な地域や市、町、村の様子を地図に表したり、地図から地域や市、町、村の様子を読み取ったりする学習を積極的に取り入れることが大切である。
- ・ 地図に表したり、地図を読み取ったりする際に必要となる方位や主な地図記号の知識については、確実な定着を図ることが重要である。

生産の仕事

○ 見学やインタビューなどで調査したことを適切にまとめる学習を重視

- ・ 地域の農家や工場、商店などを直接見学して、働く人の工夫や努力を具体的に調査した上で、その結果や具体的な資料を効果的に活用し、表現する力を育てる指導を行う必要がある。
- ・ 資料にかかっている情報を適切に読み取り、答えを導き出す資料活用能力を育てる指導を一層充実させる必要がある。

外国とのかかわり

○ 意思決定を行い、その根拠を資料から考えさせる学習を重視

- ・ 単元計画において、価値判断の分かれる問題を設定し、自分の考えや立場を、根拠となる事実や資料を基に表現する学習場面を位置付けることが大切である。
- ・ 中学年の発達段階から考えて、価値判断の根拠となる事実や資料を自分で探すことは難しいため、教師がいくつかの資料を用意し、その資料に基づいて考えさせるような配慮が大切である。

3 小学校5年:算 数

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

観 点 ・ 領 域 ・ 分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	64.3	83.5	61.9	38.0	15.0
		表 現 ・ 処 理	68.6	86.3	66.4	44.7	19.6
		知 識 ・ 理 解	66.4	87.0	63.9	37.7	14.7
		数 学 的 な 考 え 方	53.9	74.2	51.0	25.9	6.6
	領 域	数 と 計 算	70.6	89.1	69.5	43.3	17.2
		数 量 関 係	72.5	91.1	70.4	47.0	21.2
		図 形	62.6	83.6	60.0	33.4	9.2
		量 と 測 定	40.5	60.2	34.8	18.4	7.1
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	73.3	90.5	72.2	48.2	21.3
		課 題 を 解 決 す る 力	60.4	80.3	57.3	33.9	12.6
		活 用 す る 力	52.2	74.2	48.3	23.2	5.3
達成率	観 点	教 科 全 体	37.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		表 現 ・ 処 理	45.8	92.7	27.1	0.1	0.0
		知 識 ・ 理 解	51.1	93.0	38.5	1.8	0.0
		数 学 的 な 考 え 方	38.1	78.5	20.9	0.8	0.0
	領 域	数 と 計 算	60.1	98.1	55.1	2.0	0.0
		数 量 関 係	45.4	86.1	31.3	1.2	0.0
		図 形	44.8	80.9	33.0	4.4	0.0
		量 と 測 定	12.4	31.2	2.0	0.2	0.0
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	50.0	93.3	36.2	0.5	0.0
		課 題 を 解 決 す る 力	31.4	76.3	7.3	0.0	0.0
		活 用 す る 力	41.4	77.2	28.5	4.1	0.0

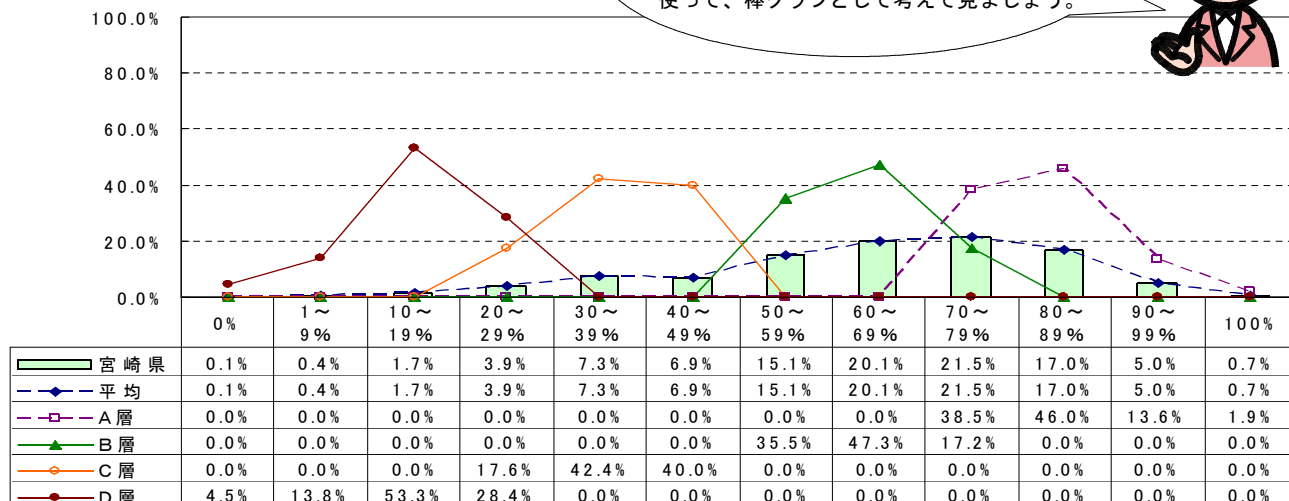
目標値	観 点	教 科 全 体	72.5
		表 現 ・ 処 理	76.9
		知 識 ・ 理 解	75.0
		数 学 的 な 考 え 方	61.4
	領 域	数 と 計 算	71.8
		数 量 関 係	74.3
		図 形	74.0
		量 と 測 定	70.0
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	78.2
		課 題 を 解 決 す る 力	73.1
		活 用 す る 力	55.0



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況

70～79%が最も多かったことがわかります。
各層と県との到達度の分布の比較をするために
折れ線グラフの線ではなく、グラフのプロットを
使って、棒グラフとして考えてみましょう。



■ 設問別解答状況一覧

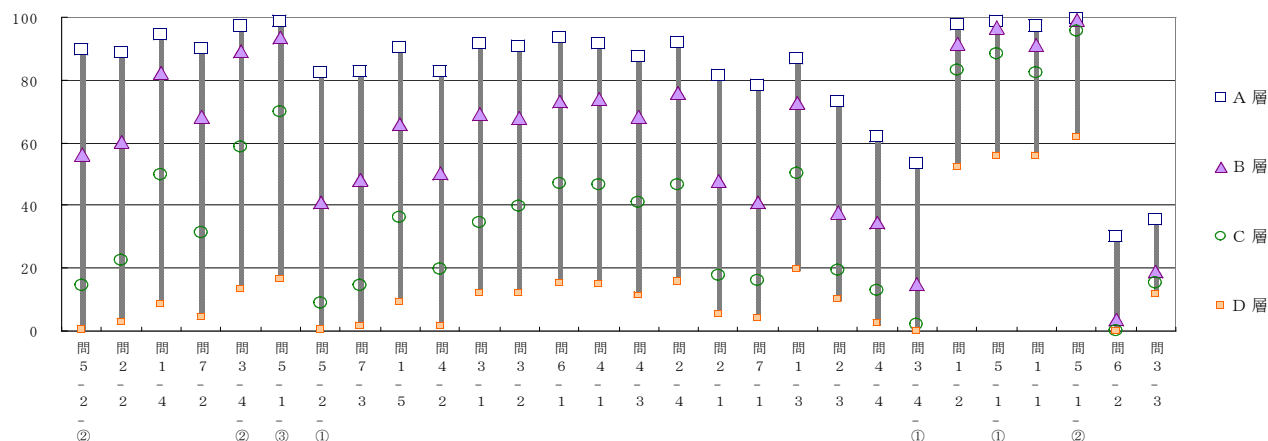
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	小数の加法の計算	数と計算	表現・処理	ア	90.7	97.0	91.3	82.2	56.0	41.0	0.1
2	1	2	小数の減法の計算	数と計算	表現・処理	ア	91.0	97.5	91.4	83.2	52.1	45.4	0.1
3	1	3	2位数×2位数の計算	数と計算	表現・処理	ア	72.3	86.6	72.6	50.3	19.5	67.1	0.8
4	1	4	3位数÷2位数の計算	数と計算	表現・処理	ア	78.8	94.2	82.3	49.8	8.4	85.8	3.5
5	1	5	四則の混合した計算	数量関係	表現・処理	ア	68.0	90.2	65.9	36.3	9.3	80.9	1.5
6	2	1	十進位取り記数法の意味	数と計算	知識・理解	ア	53.6	81.4	47.6	17.5	5.4	76.0	1.5
7	2	2	そろばんによる数の表し方	数と計算	知識・理解	ア	62.5	88.9	60.2	22.4	3.0	85.9	2.8
8	2	3	分数の大小	数と計算	知識・理解	イ	46.9	73.2	37.9	19.4	10.2	63.0	1.6
9	2	4	四捨五入による概数の表し方	数と計算	知識・理解	イ	74.9	91.8	76.0	46.5	15.6	76.2	2.2
10	3	1	分度器を使っての角の大きさの測定	量と測定	表現・処理	イ	69.6	91.4	69.0	34.6	12.0	79.4	1.0
11	3	2	時間の計算	量と測定	表現・処理	ア	69.7	90.8	67.8	39.8	12.0	78.8	2.4
12	3	3	長方形の面積	量と測定	数学的な考え方	イ	24.1	35.3	18.9	15.2	11.7	23.6	1.4
13	3	4①	正方形の面積	量と測定	表現・処理	イ	26.4	53.3	14.9	2.1	0.0	53.3	3.6
14	3	4②	分数の大きさ	数と計算	数学的な考え方	イ	84.5	97.3	89.0	58.8	13.2	84.1	3.1
15	4	1	長方形の敷き詰め	図形	知識・理解	イ	73.9	91.6	74.0	46.7	15.0	76.6	3.8
16	4	2	立方体	図形	知識・理解	ア	55.5	82.7	50.3	19.7	1.8	80.9	10.0
17	4	3	ひし形	図形	知識・理解	ア	69.0	87.7	68.3	41.0	11.4	76.3	8.4
18	4	4	円と正三角形の作図	図形	表現・処理	イ	39.9	62.0	34.5	12.9	2.4	59.6	5.9
19	5	1①	資料の分類整理	数量関係	知識・理解	ア	94.8	98.9	96.8	88.4	55.7	43.2	0.8
20	5	1②	資料の分類整理	数量関係	表現・処理	イ	97.5	99.7	99.1	95.4	62.0	37.7	1.1
21	5	1③	資料の分類整理	数量関係	表現・処理	イ	88.9	98.7	93.5	69.7	16.5	82.2	3.6
22	5	2①	数量の関係を式に表す	数量関係	表現・処理	イ	49.4	82.2	40.9	8.9	0.6	81.6	9.8
23	5	2②	数量の関係を発展的に考える	数量関係	数学的な考え方	イ	59.5	89.7	56.1	14.4	0.3	89.4	11.3
24	6	1	図形の敷き詰め	図形	数学的な考え方	ウ	74.5	93.7	73.2	47.0	15.3	78.4	2.9
25	6	2	複合図形の面積	量と測定	数学的な考え方	ウ	12.8	30.3	3.6	0.1	0.0	30.3	9.8
26	7	1	四則に関して成り立つ性質	数量関係	表現・処理	イ	49.3	78.5	40.8	16.1	4.2	74.3	7.7
27	7	2	2種類の品物の買い方を考える	数と計算	数学的な考え方	ウ	68.0	90.1	68.4	31.3	4.5	85.6	9.5
28	7	3	お金の出し方を考える	数と計算	数学的な考え方	ウ	53.6	82.8	48.1	14.4	1.5	81.3	14.0

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 表現・処理** — 事象を数理的に処理し、言葉や式、グラフ、図形、数学的な用語・記号などを用いて表現することができるかどうかをみる問題。
(例) ■ 小数の加法・減法の計算をする。
■ 分度器を使って、角の大きさを測定する。
- 知識・理解** — 数量や図形などに関する基礎的・基本的な内容が定着しているかどうかをみる問題。
(例) ■ 十進位取り記数法の意味を理解する。
■ ひし形の性質を理解する。
- 数学的な考え方** — 事象を数学的にとらえ、見通しをもって筋道を立てて考え、問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■ 正方形の面積を利用して、複合図形の面積を求める。
■ 2種類の品物の買い方の組み合わせを考える。

■ 課題等

数と計算

- ◇ 小数の加法の計算(大問1小問1)の設問別通過率は90.7%、小数の減法の計算(大問1小問2)は91.0%であり、領域の目標値71.8%をかなり上回っている。
- ◆ 十進位取り記数法の意味の理解について課題がある。(大問2小問1)
- ◆ 分数の大小関係の理解について課題がある。(大問2小問3)
- ◆ 情報を整理し、筋道を立てて考えることに課題がある。(大問7小問3)

数量関係

- ◇ 資料の分類整理(大問5小問1①、②)は、設問別通過率がそれぞれ94.8%、97.5%であり、領域の目標値74.3%をかなり上回っている。
- ◆ 数量の関係を図や表から読み取り、式に表すことに課題がある。(大問5小問2①) 中学校数学でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 四則に関して成り立つ性質を選ぶことに課題がある。(大問7小問1)

図形

- ◆ 立方体の面が正方形であることの理解について課題がある。(大問4小問2)
- ◆ 定規やコンパスを使って、円と正三角形を作図することに課題がある。(大問4小問4) 中学校数学でも同様の傾向がみられる。

量と測定

- ◆ 長方形の面積の公式を基に、面積を求めることに課題がある。(大問3小問3)
- ◆ 正方形の面積の公式を基に、面積を求めることに課題がある。(大問3小問4) 中学校数学でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 正方形の面積を利用し、複合図形の面積を求めることに課題がある。(大問6小問2)

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

数と計算

○ 具体物や数直線を用いて、数の大きさをとらえさせる学習を重視

- ・ 国の人口や予算などのような場面を取り上げることで、数の相対的な大きさについて、具体的なイメージをもてるようにすることが大切である。
- ・ 数直線や分数・小数の大きさを表した図などを利用し、数の大きさについての理解を図ることが大切である。また、仮分数を帯分数に直し、分数と整数の大小の比較ができるようにすることも大切である。
- ・ 計算を実際の生活の場面と結び付け、生活や学習に活用できるようにすることが大切である。

数量関係

○ 数量関係について言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて考え、説明させる学習の充実

- ・ 伴って変わる二つの数量を見だし、数量の関係を表やグラフを用いて考えたり、話し合ったりする活動を取り入れ、特徴や傾向を言葉や式、図、表、グラフなどを用いて説明できるようにすることが大切である。
- ・ 式を言葉や図、表、グラフなどと関連付けて説明したり、分かりやすく伝え合ったりできるようにすることが大切である。

図 形

○ 具体物に着目して考え、図形の性質などについて説明させる学習の充実

- ・ 身の回りにある具体物などを、形や大きさ、位置関係などに着目して観察したり、実際に紙や模型を用いて考えたりする活動を取り入れることが大切である。
- ・ 身の回りの事象について、図形として着目してとらえようとする意欲や態度を養う場面を設定することが大切である。
- ・ 正三角形や円を、定規やコンパスを用いて作図したり、立方体や直方体を見取図や展開図で表したりする活動を通して、図形の性質を見だし、説明する学習を行うことが大切である。また、既習の知識・技能を用いて考える力や表現する力を育成することが大切である。

量と測定

○ 単位の大きさや面積の求め方を実感を伴って理解させる学習の充実

- ・ 身の回りにあるものの面積を実際に測定したり、様々な場面で単位を用いたりするなどの活動を取り入れ、実感を伴って単位の大きさや、面積の求め方を確実に理解できるようにすることが大切である。
- ・ 正方形や長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、既習事項を基に考え、言葉や数、式、図を用いて、筋道を立てて説明したり、他の考え方を聞いたりする態度を育成することが大切である。

4 小学校5年:理 科

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

観 点 ・ 領 域 ・ 分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	59.1	81.0	61.6	38.4	16.2
		知 識 ・ 理 解	65.8	86.3	69.5	45.0	17.8
		技 能 ・ 表 現	51.8	76.3	53.9	29.0	11.5
		科 学 的 思 考	56.4	77.7	57.6	38.5	19.0
	領 域	生 命 ・ 地 球 (生 命)	65.6	83.1	68.2	49.2	22.7
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (エ ネ ル ギ ー)	50.0	73.1	50.8	31.1	13.1
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (粒 子)	51.3	79.5	52.7	26.4	11.1
		生 命 ・ 地 球 (地 球)	60.8	84.3	65.1	35.4	12.2
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	64.9	84.1	68.2	45.5	21.0
		課 題 を 解 決 す る 力	54.7	78.5	56.5	33.4	12.4
		活 用 す る 力	43.6	73.6	45.2	16.5	3.7
達成率	観 点	教 科 全 体	29.6	100.0	13.1	0.0	0.0
		知 識 ・ 理 解	37.8	92.6	32.6	0.3	0.0
		技 能 ・ 表 現	31.1	84.5	23.1	0.3	0.0
		科 学 的 思 考	29.0	75.1	22.5	1.4	0.0
	領 域	生 命 ・ 地 球 (生 命)	43.6	90.7	43.0	4.7	0.0
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (エ ネ ル ギ ー)	36.9	79.8	34.2	5.5	0.0
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (粒 子)	28.6	73.4	22.5	1.6	0.0
		生 命 ・ 地 球 (地 球)	37.2	87.2	33.6	1.1	0.0
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	40.7	94.4	37.6	0.3	0.0
		課 題 を 解 決 す る 力	28.0	85.0	16.7	0.0	0.0
		活 用 す る 力	62.4	92.1	67.8	29.5	7.3

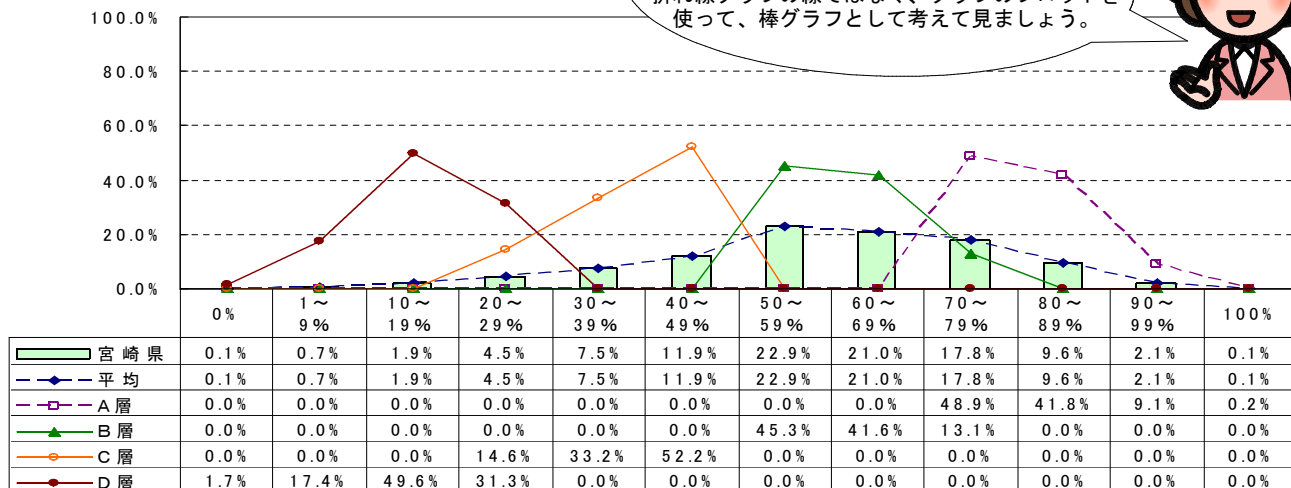
目標値	観 点	教 科 全 体	70.5
		知 識 ・ 理 解	73.9
		技 能 ・ 表 現	67.0
		科 学 的 思 考	68.8
	領 域	生 命 ・ 地 球 (生 命)	70.4
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (エ ネ ル ギ ー)	64.2
		物 質 ・ エ ネ ル ギ ー (粒 子)	68.0
		生 命 ・ 地 球 (地 球)	76.1
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	74.7
		課 題 を 解 決 す る 力	68.9
		活 用 す る 力	47.5



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況

50～59%が最も多かったことがわかります。
各層と県との到達度の分布の比較をするために
折れ線グラフの線ではなく、グラフのプロットを
使って、棒グラフとして考えてみましょう。



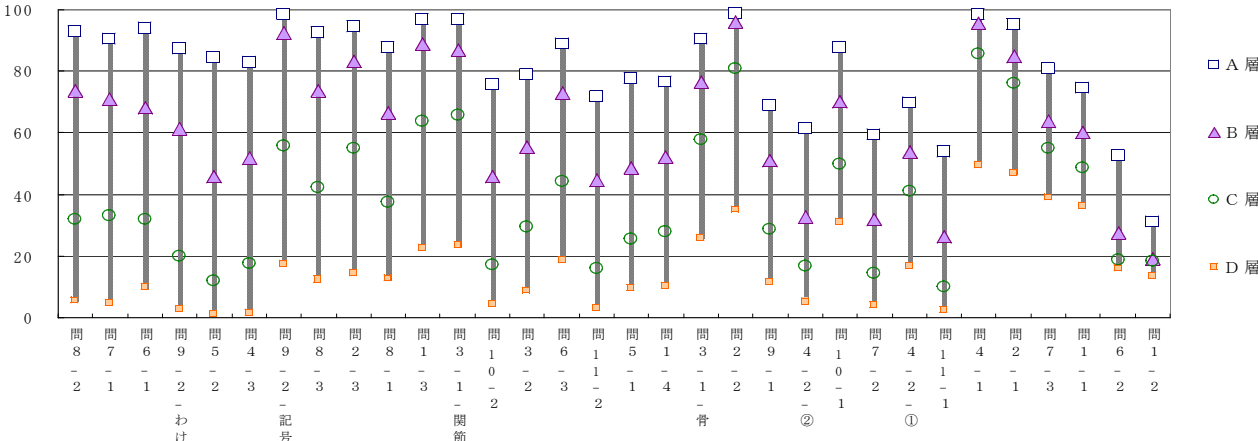
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	ヘチマの種	生命・地球(生命)	知識・理解	ア	59.9	74.7	60.0	48.7	36.4	38.3	0.1
2	1	2	虫めがねの使い方	生命・地球(生命)	技能・表現	ア	21.5	30.9	19.2	18.3	13.4	17.5	0.4
3	1	3	季節ごとの植物の成長	生命・地球(生命)	知識・理解	イ	82.4	97.0	88.7	63.8	22.7	74.3	0.3
4	1	4	温度計の目盛りの見方	生命・地球(生命)	技能・表現	ア	50.6	76.6	52.1	27.9	10.3	66.3	0.9
5	2	1	昆虫の育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	ア	83.8	95.4	84.9	75.9	47.2	48.2	0.3
6	2	2	昆虫の特徴	生命・地球(生命)	科学的思考	イ	90.9	98.7	96.1	81.0	35.0	63.7	0.8
7	2	3	植物と昆虫との関わり	生命・地球(生命)	知識・理解	イ	76.8	94.3	83.3	54.9	14.2	80.1	5.8
8	3	1骨	骨と関節	生命・地球(生命)	知識・理解	ア	73.5	90.6	76.4	57.6	25.9	64.7	1.9
9	3	1関節	骨と関節	生命・地球(生命)	知識・理解	ア	82.0	96.7	86.9	65.9	23.7	73.0	2.0
10	3	2	骨と筋肉	生命・地球(生命)	知識・理解	ア	53.2	79.0	55.4	29.6	8.6	70.4	3.4
11	4	1	電池のつなぎ方	物質・エネルギー(エネルギー)	科学的思考	ア	92.4	98.6	95.8	85.5	49.6	49.0	4.3
12	4	2①	電気を通す物・通さない物	物質・エネルギー(エネルギー)	技能・表現	イ	53.2	69.9	53.7	41.2	16.6	53.3	0.8
13	4	2②	電気を通す物・通さない物	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	イ	34.5	61.5	32.5	16.7	5.1	56.4	4.7
14	4	3	電気のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	技能・表現	イ	49.2	82.8	51.8	17.4	1.7	81.1	15.9
15	5	1	空気の温度とかさ	物質・エネルギー(粒子)	科学的思考	イ	48.5	77.7	48.5	25.3	9.5	68.2	3.6
16	5	2	空気の温度とかさ	物質・エネルギー(粒子)	技能・表現	イ	45.4	84.6	46.0	11.8	1.2	83.4	16.8
17	6	1	水のあたためり方	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	ア	63.7	94.1	68.3	31.8	9.8	84.3	4.4
18	6	2	水のあたためり方	物質・エネルギー(粒子)	科学的思考	イ	30.9	52.5	27.6	18.9	15.9	36.6	5.1
19	6	3	氷になるときの体積の変化	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	ア	67.9	88.8	72.9	44.1	18.8	70.0	5.4
20	7	1	かげの動きと太陽	生命・地球(地球)	知識・理解	ア	64.3	90.3	70.9	33.2	4.6	85.7	2.0
21	7	2	かげの動きと太陽	生命・地球(地球)	科学的思考	イ	33.2	59.5	32.0	14.2	3.9	55.6	2.5
22	7	3	地面の温度のはかり方	生命・地球(地球)	技能・表現	ア	64.9	80.9	63.9	55.0	39.1	41.8	1.5
23	8	1	星の観察の仕方	生命・地球(地球)	技能・表現	ア	62.9	87.8	66.6	37.6	12.7	75.1	11.2
24	8	2	星の観察の仕方	生命・地球(地球)	技能・表現	ア	66.1	93.0	73.8	32.0	5.6	87.4	9.4
25	8	3	星の動き方	生命・地球(地球)	知識・理解	イ	68.6	92.6	73.7	42.4	12.2	80.4	4.5
26	9	1	天気の様子	生命・地球(地球)	技能・表現	ア	48.5	69.1	50.9	28.6	11.5	57.6	6.3
27	9	2記号	天気の様子	生命・地球(地球)	知識・理解	ア	82.7	98.6	92.4	55.8	17.6	81.0	7.8
28	9	2わけ	天気の様子	生命・地球(地球)	技能・表現	イ	55.6	87.1	61.3	19.9	2.9	84.2	12.9
29	10	1	季節と動物の活動の関係	生命・地球(生命)	科学的思考	イ	68.0	87.5	70.1	49.9	31.1	56.4	2.3
30	10	2	季節と動物の活動の関係	生命・地球(生命)	科学的思考	ウ	44.5	75.5	45.8	17.2	4.2	71.3	12.8
31	11	1	磁石の働き	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	イ	28.0	53.9	26.2	10.0	2.2	51.7	18.2
32	11	2	磁石の働き	物質・エネルギー(エネルギー)	科学的思考	ウ	42.7	71.8	44.5	15.8	3.2	68.6	15.7

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 知識・理解** — 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■水が氷になると体積が増えることを理解する。
■日陰の位置は太陽の動きによって変わることを理解する。
- 技能・表現** — 自然の事物・現象についての課題を追究するための観察・実験に必要な技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■虫めがねを正しく使って細かい部分の観察ができる。
■気温を適切に測ることができる。
- 科学的思考** — 自然の事物・現象の共通性や相互のかかわり、性質や変化、規則性についての見方や考え方が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■温度変化と空気の体積の変化との関係を説明する。
■水は熱せられた部分が移動して全体が温まることを考察する。

■ 課題等

生命・地球（生命）

- ◇ 昆虫の特徴を選択する問題（大問2小問2）は、設問別通過率90.9%で、領域の目標値70.4%をかなり上回っている。
- ◆ 昨年度同様、虫めがねの正しい使い方に課題がある。中学校も同様の傾向がみられる。
- ◆ 0℃よりも低い温度を読み取る問題（大問1小問4）は、設問別通過率50.6%で、観点（技能・表現）の目標値67.0%をかなり下回っている。
- ◆ 冬にツバメの食べ物（昆虫）が活動しなくなることを説明する問題（大問10小問2）は、設問別通過率44.5%で、観点（科学的思考）の目標値68.8%をかなり下回っている。与えられた情報と既存の知識を関連させて考えることに課題がある。

物質・エネルギー（エネルギー）

- ◇ 豆電球が点灯しない電池のつなぎ方を選択する問題（大問4小問1）は、設問別通過率92.4%で、領域の目標値64.2%をかなり上回っている。
- ◆ 回路の一部に物を入れたとき、豆電球が点灯する性質のある物（鉄、アルミニウム、銅など）を金属ととらえることに課題がある。
- ◆ 回路に関する実験の結果を表に整理したり、電気が流れない現象を「回路」という言葉を使用して適切に説明したりすることに課題がある。
- ◆ 空き缶回収機の様子と金属の性質を結び付け、アルミ缶とスチール缶の磁石の付き方を説明することに課題がある（大問11小問1）。無解答率も18.2%で最も高い。

物質・エネルギー（粒子）

- ◆ 空気の温度とかさの関係を調べる実験操作の意味の理解（大問5小問1）、実験結果から分かることを与えられた言葉を使用して説明すること（大問5小問2）に課題がある。
- ◆ あたためられた水の移動を考察する問題（大問6小問2）は、設問別通過率30.9%で、領域の目標値64.2%をかなり下回っている。

生命・地球（地球）

- ◇ 雨の日の気温の変化のグラフを選択する問題（大問9小問2）は、設問別通過率82.7%で、領域の目標値76.1%をかなり上回っている。
- ◆ 晴れの日と雨の日の気温のグラフの違いを読み取り、説明することに課題がある。
- ◆ 影の動きと太陽の動きを、方位をとらえて考察することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

生命・地球（生命）

- 十分に時間をかけた観察や、実験の技能を身に付ける活動の重視
 - ・ 観察、実験を充実させるとともに、理由を考えさせながら実験の技能を身に付けさせる必要がある。
- 継続的な定点観測等を通して、季節ごとの気温の変化等を直接体験する活動の重視
 - ・ 季節ごとに生物や気温の変化を継続して観察させる活動が大切である。零下という気温を読み取る必要性を見い出させることや実感を伴って理解させる必要がある。
- 必要な知識や情報を活用させて課題を解決し、答えを適切に説明する学習の重視
 - ・ 課題に対して、理科で学習した内容を想起させ、新たに与えられた情報を結び付けさせながら、比較させたり、関係付けさせて解決させたりするとともに、その過程を論理的に説明させることが大切である。

物質・エネルギー（エネルギー）

- 実験の結果を整理する活動の重視
 - ・ 実験の結果を考察する場面では、表などに分類、整理させることで、物の性質をとらえさせるようにすることが重要である。
- 自然の事物・現象を科学的な言葉を使用して説明する活動の重視
 - ・ 豆電球が点灯したり、点灯しなかったりする現象を「回路」という言葉を使用して考察させ、適切に説明させることが重要である。
- 磁石につく金属とつかない金属を区別する活動の重視
 - ・ 鉄は磁石につく金属であり、アルミニウムは磁石につかない金属であるということを、実験を通して理解させることが大切である。

エネルギー（粒子）

- 実験の目的や操作の意味を考える活動の重視
 - ・ 目的意識をもって実験に取り組ませることが重要である。実験において、意図的に変化させた条件（例：フラスコの温度）と、それによって変化した結果（例：シャボン玉のふくらみ方）との違いや関係を考察させることが大切である。
- 物の温まり方の違いをモデル等を使って考察する活動の重視
 - ・ 水の温まり方に関する実験の結果を、モデル等を使って考察させ、規則性をとらえさせることが大切である。水の体積の変化、状態変化なども同様に考察させ、水の性質についての見方や考え方をもちつことができるようにすることが重要である。

生命・地球（地球）

- 1日の気温の変化を表したグラフの特徴を読み取り、説明する活動の重視
 - ・ グラフの特徴を読み取らせ、結果の要因として考えられることを意識させながら説明させることが大切である。
- 方位や空間をとらえ、太陽や影の位置の変化を調べる活動の重視
 - ・ 太陽や影の位置の変化を調べる活動においては、方位磁針を用いて東、西、南、北で空間をとらえさせるとともに、日常において方位を意識させるようにすることが大切である。

Ⅱ-2 中学校 各教科の分析

1 中学校2年:国 語

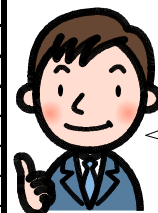
■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

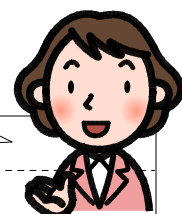
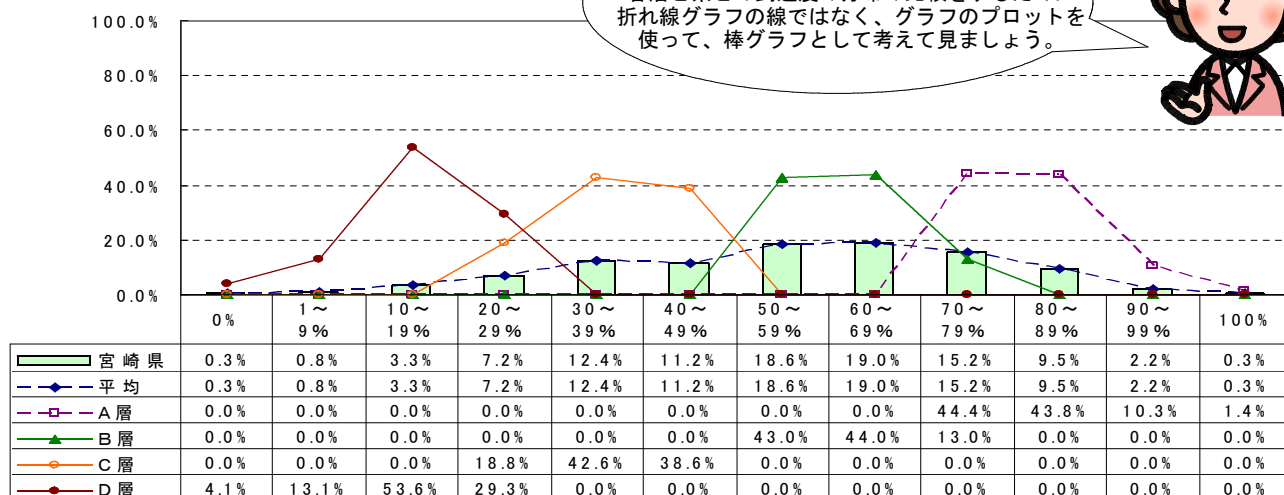
観 点・領 域・分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	55.9	82.5	60.6	37.7	14.9
		読 む 能 力	61.6	86.9	67.8	42.5	19.3
		書 く 能 力	38.3	64.4	40.8	21.8	5.9
		言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	53.5	81.4	57.3	35.8	12.5
	領 域	読 む こ と	60.7	86.2	66.5	41.8	18.5
		書 く こ と	38.3	64.4	40.8	21.8	5.9
		言 語 事 項	53.3	81.3	57.0	35.4	12.3
		分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	58.0	83.5	62.0	41.7
	課 題 を 解 決 す る 力		55.1	85.3	61.6	31.6	13.8
	活 用 す る 力		49.3	73.3	53.4	33.8	8.5
達成率	観 点	教 科 全 体	33.3	100.0	27.1	0.0	0.0
		読 む 能 力	39.3	94.5	42.8	1.2	0.0
		書 く 能 力	19.9	42.9	19.7	6.9	0.8
		言 語 に つ い て の 知 識 ・ 理 解 ・ 技 能	28.0	88.2	20.6	0.3	0.0
	領 域	読 む こ と	41.4	97.7	46.3	0.7	0.0
		書 く こ と	19.9	42.9	19.7	6.9	0.8
		言 語 事 項	35.7	94.2	34.3	1.6	0.0
		分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	37.1	96.6	36.8	1.1
	課 題 を 解 決 す る 力		35.7	89.5	36.8	1.5	0.0
	活 用 す る 力		33.3	69.9	34.5	11.1	0.6

目標値	観点	教科全体	66.4
		読む能力	69.2
		書く能力	55.0
		言語についての知識・理解・技能	65.7
	領域	読むこと	70.7
		書くこと	55.0
		言語事項	63.3
	分類	基礎的・基本的な内容	67.5
		課題を解決する力	63.8
		活用する力	67.5



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



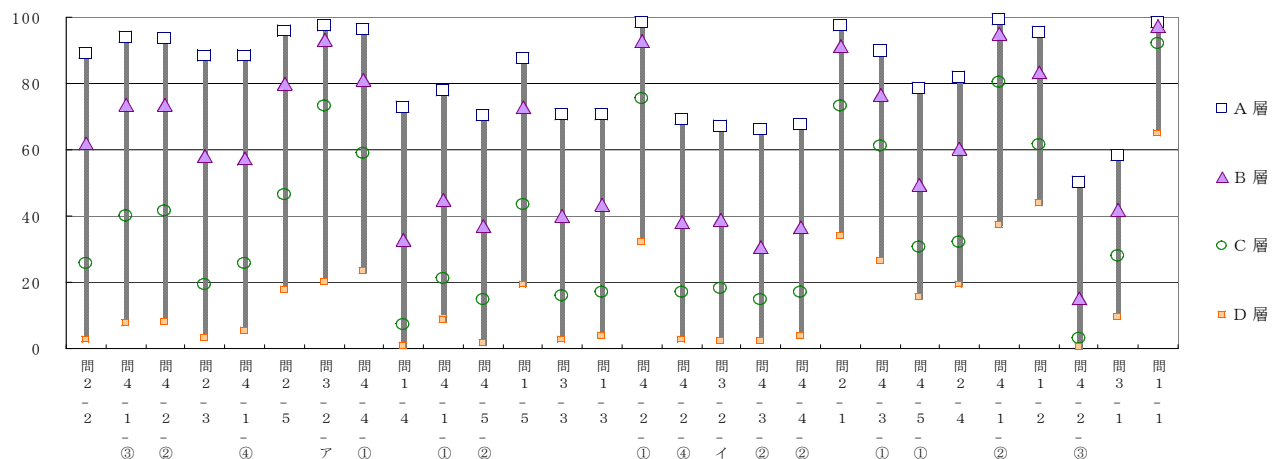
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し 番号	大問	小問											
1	1	1	文脈の把握・語句の理解	読むこと	読む能力	ア	94.1	98.6	97.3	92.2	64.9	33.7	0.3
2	1	2	内容の把握	読むこと	読む能力	イ	77.2	95.4	83.3	61.6	43.7	51.7	0.5
3	1	3	内容の把握・要約	読むこと	読む能力	イ	39.1	70.4	43.4	17.0	3.8	66.6	9.2
4	1	4	内容の把握	読むこと	読む能力	イ	32.1	73.0	32.9	7.0	0.9	72.1	8.7
5	1	5	内容の把握	読むこと	読む能力	イ	64.3	87.6	72.9	43.5	19.4	68.2	0.9
6	2	1	文脈の把握・語句の理解	読むこと	読む能力	ア	84.0	97.5	91.5	73.3	33.8	63.7	0.4
7	2	2	文章の構成の把握	読むこと	読む能力	イ	53.7	89.2	61.9	25.7	2.6	86.6	8.7
8	2	3	内容の把握・要約	読むこと	読む能力	イ	50.0	88.4	58.0	19.3	3.2	85.2	14.6
9	2	4	文章の構成・組み立ての把握	読むこと	読む能力	イ	54.2	82.0	60.3	31.9	19.1	62.9	1.4
10	2	5	要旨の把握	読むこと	読む能力	イ	70.0	96.0	80.1	46.6	17.9	78.1	1.1
11	3	1	資料の情報をもとにした自分の考えの記述	書くこと	書く能力	ウ	39.3	58.2	41.8	27.8	9.3	48.9	7.0
12	3	2ア	資料の読み取り	読むこと	読む能力	ウ	83.9	97.3	93.3	73.2	19.9	77.4	6.4
13	3	2イ	資料の読み取り	読むこと	読む能力	ウ	36.7	67.1	38.7	18.3	2.4	64.7	16.4
14	3	3	資料の情報をもとにした自分の考えの記述	書くこと	書く能力	ウ	37.2	70.6	39.9	15.7	2.6	68.0	16.4
15	4	1①	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	43.0	77.9	45.0	21.2	8.5	69.4	5.8
16	4	1②	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	88.1	99.2	95.0	80.3	37.5	61.7	2.6
17	4	1③	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	64.1	93.9	73.4	40.0	7.7	86.2	8.7
18	4	1④	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	51.7	88.4	57.5	25.6	5.2	83.2	5.9
19	4	2①	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	85.3	98.5	92.8	75.5	31.9	66.6	7.1
20	4	2②	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	64.6	93.5	73.5	41.6	8.0	85.5	11.2
21	4	2③	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	18.3	50.3	15.2	2.9	0.3	50.0	34.2
22	4	2④	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	36.5	69.0	38.2	16.8	2.7	66.3	19.5
23	4	3①	文節	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	71.9	89.9	76.7	61.2	26.3	63.6	2.7
24	4	3②	修飾・被修飾の関係	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	31.9	65.9	30.7	14.7	2.1	63.8	5.6
25	4	4①	歴史的仮名遣い	読むこと	言語についての知識・理解・技能	ア	74.4	96.3	81.0	58.9	23.5	72.8	6.3
26	4	4②	歴史的仮名遣い	読むこと	言語についての知識・理解・技能	ア	35.6	67.7	36.7	16.8	3.9	63.8	7.8
27	4	5①	行書の特徴	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	48.1	78.4	49.4	30.7	15.3	63.1	2.0
28	4	5②	行書の特徴・語彙	言語事項	言語についての知識・理解・技能	ア	35.6	70.2	37.1	14.9	1.5	68.7	12.8

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 読む能力** ー 「読むこと」の領域において、基礎的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。
(例) ■ 文章の内容を的確にとらえ、まとめる。
 ■ 文章の構成や組み立てをとらえる。
 ■ 資料を検討し、必要な情報を読み取る。
- 書く能力** ー 「書くこと」の領域において、基礎的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。
(例) ■ 伝えたい事柄を明確にし、端的にまとめて書く。
 ■ 資料の情報を生かし、伝えたい事柄を条件に従って書く。
- 言語についての知識・理解・技能** ー 言語事項に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■ 漢字を正しく読む。正しく書く。
 ■ 文節や修飾・被修飾の関係を正しくとらえる。
 ■ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。

■ 課題等

読むこと

- ◇ 登場人物の心情やその変化を読み取り、適切なものを選択肢から選ぶ問題（大問1小問2）や、適切な慣用句を選択肢から選ぶ問題（大問1小問1）及び適切な接続語を選択肢から選ぶ問題（大問2小問1）は、それぞれの設問別通過率が94.1%、77.2%、84.0%で、領域の目標値の70.7%を上回っている。
- ◆ 文章の内容を的確にとらえ、まとめる問題（大問1小問3・大問2小問3）は、それぞれの設問別通過率が39.1%、50.0%であり、領域の目標値をかなり下回っている。内容を正確に読み取り、書いてまとめる力に課題がある。小学校でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 文章から対照的な表現を指摘する問題（大問1小問4）や、問題提起に当たる一文を指摘する問題（大問2小問2）、文章の展開に即して一文を適切な箇所に挿入する問題（大問2小問4）は、それぞれの設問別通過率が32.1%、53.7%、54.2%であり、領域の目標値をかなり下回っている。文章の構成や組み立てをとらえる力に課題がある。
- ◆ 案内文書の内容として不足している部分を指摘する問題（大問3小問2イ）は、設問別通過率が36.7%であり、領域の目標値をかなり下回っている。様々な種類の資料から、必要な情報を読み取り、活用する力に課題がある。

書くこと

- ◆ 資料の情報を基に、伝えるべき内容を端的にまとめて書く問題（大問3小問1）、資料の情報を基に、目的や意図に応じて、相手に話しかける形でわかりやすく書く問題（大問3小問3）は、それぞれの設問別通過率が39.3%、37.2%であり、領域の目標値55.0%を下回っている。資料の情報を基にして自分の考えを記述する力に課題がある。小学校でも同様の傾向がみられる。

言語事項

- ◆ 漢字（大問4小問1・2）については、「帰省」「費（やす）」の読み、「典型」「半（ば）」の書き取りの設問別通過率が、それぞれ43.0%、51.7%、18.3%、36.5%であり、領域の目標値63.3%を下回っている。日常的に使い慣れていない漢字の読み書きに課題がある。
- ◆ 文法（大問4小問3）については、「ちょうど」が修飾している部分を抜き出す問題の設問別通過率が31.9%であり、領域の目標値を大きく下回っている。文の修飾・被修飾の関係をとらえることに課題がある。
- ◆ 古典（大問4小問4）については、歴史的仮名遣い（「こたふる」）を、現代仮名遣い（「こたうる」）に直して書く問題の設問別通過率が35.6%であり、領域の目標値を大きく下回っている。古典の基礎的な知識や技能に課題がある。
- ◆ 書写（大問4小問5）については、行書で書かれた漢字の画数を書く問題、その漢字を含む熟語を書く問題の設問別通過率が、それぞれ48.1%、35.6%であり、領域の目標値を下回っている。行書の基礎的な知識や技能、語彙力に課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

読むこと

- 文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えをまとめる言語活動の充実
 - ・ 「何が書かれているか」だけでなく、「どのように書かれているか」にも着目させ、文章の展開や構成、その効果について考えさせる場面を設定する必要がある。
 - ・ 文章の表現を根拠にしながら、読み取った内容について話し合ったり、書いてまとめたりする場面を設定する必要がある。
- 資料から必要な情報を読み取り、効果的に活用する言語活動の充実
 - ・ 目的に応じて資料から必要な情報を取り出し、それを自分の学習や生活に生かす場面を設定する必要がある。

書くこと

- 文章や資料を基に伝えたい内容をまとめ、条件に従って書く言語活動の充実
 - ・ 複数の文章や資料を読み比べ、その内容や表現の仕方についてまとめたり、自分の表現に役立てたりする場面を設定する必要がある。
 - ・ 伝えるべき内容が正しく伝わるよう、相手や目的に応じて内容を整理したり、表現を工夫したりする場面を設定する必要がある。

言語事項

- 基礎的・基本的な言語事項の定着を図り、自分の言語生活に生かす指導の重視
 - ・ 漢字については、正確に読み書きができるだけでなく、実際に読んだり書いたりする機会を多くして、文脈に即して使えるようにする指導の工夫が必要である。
 - ・ 文法については、文脈におけることばの働きに着目させ、知識として理解しているだけでなく、実際の場面で使えるようにする指導の工夫が必要である。
 - ・ 書写については、楷書や行書に対する知識や技能を高め、文字を正しく丁寧に書こうとする意識や態度を育てる指導の工夫が必要である。
 - ・ 古典については、音読・朗読・暗唱することにより、古典特有のリズムに親しませながら、文語のきまりを習得させる指導の工夫が必要である。

2 中学校2年:社 会

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

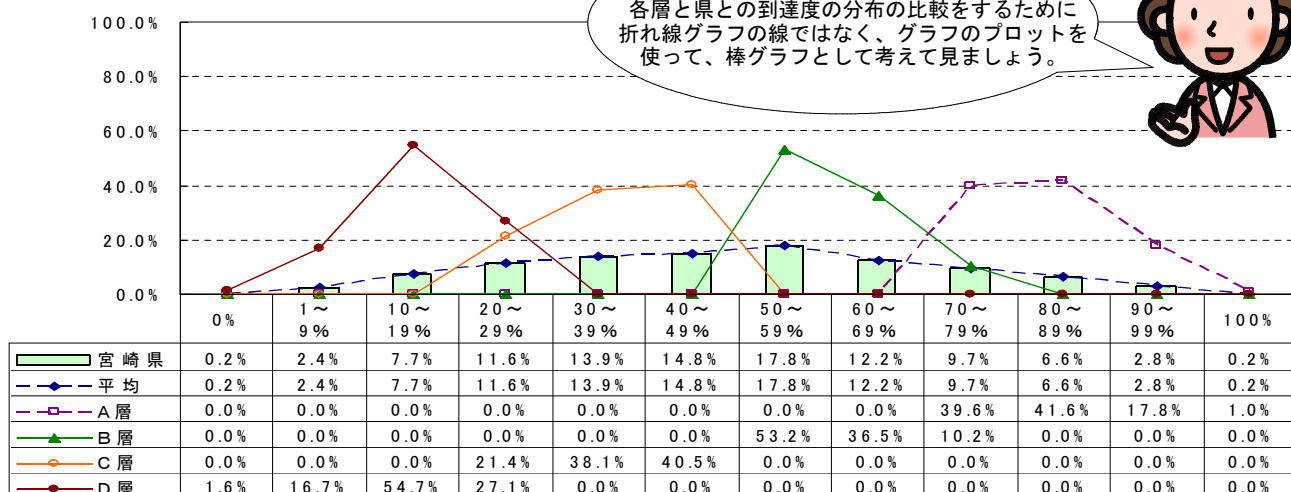
観 点・領 域・分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	49.0	82.8	60.4	36.6	16.0
		知 識・理 解	55.3	86.6	66.8	44.1	22.0
		資 料 活 用	51.0	85.7	63.5	38.3	15.4
		思 考 判 断	35.8	72.5	45.6	22.1	7.3
	領 域	世 界 と 日 本 の 地 域 構 成	48.6	82.4	58.0	36.9	18.8
		地 域 の 規 模 に 応 じ た 調 査	47.0	80.2	58.4	35.1	13.6
		古 代 ま で の 日 本	50.7	83.6	63.3	38.1	16.9
		中 世 の 日 本	48.4	86.4	62.2	33.2	12.6
		近 世 の 日 本	49.5	85.4	61.8	36.7	13.3
	分 類	基 礎 的・基 本 的 な 内 容	58.8	87.6	69.7	49.1	25.7
		課 題 を 解 決 す る 力	44.3	83.4	57.2	29.1	9.3
		活 用 す る 力	30.5	66.6	40.0	16.9	3.0
達成率	観 点	教 科 全 体	19.3	100.0	10.2	0.0	0.0
		知 識・理 解	24.6	91.6	28.9	1.0	0.0
		資 料 活 用	27.9	94.5	37.3	1.1	0.0
		思 考 判 断	22.1	84.9	24.6	1.0	0.0
	領 域	世 界 と 日 本 の 地 域 構 成	19.5	77.1	20.3	1.4	0.0
		地 域 の 規 模 に 応 じ た 調 査	22.8	80.7	27.4	2.2	0.1
		古 代 ま で の 日 本	19.5	77.9	20.9	0.5	0.0
		中 世 の 日 本	28.8	75.1	39.2	10.2	0.5
		近 世 の 日 本	16.3	60.2	17.8	2.1	0.1
	分 類	基 礎 的・基 本 的 な 内 容	22.9	88.9	25.6	0.6	0.0
		課 題 を 解 決 す る 力	19.3	87.1	16.2	0.0	0.0
		活 用 す る 力	25.6	78.0	32.8	6.1	0.0

目標値	観 点	教 科 全 体	70.0
		知 識・理 解	74.2
		資 料 活 用	70.9
		思 考 判 断	61.9
	領 域	世 界 と 日 本 の 地 域 構 成	73.3
		地 域 の 規 模 に 応 じ た 調 査	64.4
		古 代 ま で の 日 本	70.5
		中 世 の 日 本	72.5
		近 世 の 日 本	71.7
	分 類	基 礎 的・基 本 的 な 内 容	77.0
		課 題 を 解 決 す る 力	67.5
		活 用 す る 力	55.0



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何％
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



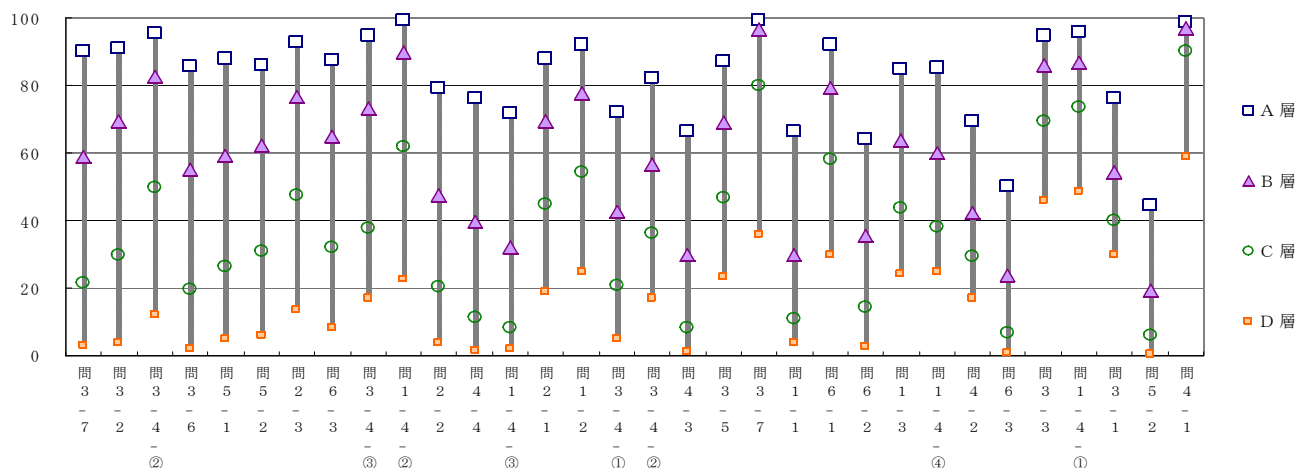
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	緯線	世界と日本の地域構成	知識・理解	ア	25.1	66.3	29.8	11.1	3.8	62.5	3.2
2	1	2	大陸の分布	世界と日本の地域構成	資料活用	ア	64.0	92.0	77.7	54.4	24.8	67.2	1.3
3	1	3	地球儀と地図のちがい	世界と日本の地域構成	思考判断	ア	54.3	84.9	63.8	43.8	24.3	60.6	1.4
4	1	4①	地球上の距離	世界と日本の地域構成	資料活用	ア	78.0	95.9	86.8	73.6	48.7	47.2	1.0
5	1	4②	日本の標準時	世界と日本の地域構成	知識・理解	ア	71.6	99.2	90.0	61.8	22.5	76.7	7.2
6	1	4③	時差	世界と日本の地域構成	思考判断	イ	25.4	71.8	32.0	8.3	1.9	69.9	16.8
7	1	4④	日本の領域	世界と日本の地域構成	知識・理解	ア	51.1	85.3	60.0	38.1	25.0	60.3	4.1
8	2	1	地形図の読み取り方	地域の規模に応じた調査	思考判断	イ	56.4	88.0	69.6	44.9	19.0	69.0	14.6
9	2	2	地形図の読み取り方	地域の規模に応じた調査	知識・理解	ア	36.5	79.3	47.7	20.4	3.7	75.6	9.4
10	2	3	グラフの読み取り方	地域の規模に応じた調査	資料活用	イ	59.6	92.8	76.7	47.4	13.4	79.4	20.6
11	3	1	古代の文化	古代までの日本	知識・理解	ア	49.2	76.4	54.4	40.1	30.0	46.4	1.2
12	3	2	大陸とのかかわり	古代までの日本	知識・理解	イ	49.0	90.9	69.4	29.8	3.7	87.2	24.7
13	3	3	大和政権	古代までの日本	知識・理解	ア	75.7	94.9	85.9	69.6	46.1	48.8	1.1
14	3	4①	飛鳥文化	古代までの日本	資料活用	イ	33.9	72.0	42.5	20.6	5.0	67.0	14.6
15	3	4②	律令国家	古代までの日本	知識・理解	ア	62.7	95.6	82.7	49.9	11.9	83.7	13.3
16	3	4③	律令国家	古代までの日本	知識・理解	ア	47.7	82.2	56.5	36.4	16.9	65.3	4.8
17	3	4④	院政	古代までの日本	知識・理解	ア	55.7	94.8	73.2	37.8	16.8	78.0	2.7
18	3	5	執権政治	中世の日本	資料活用	イ	57.4	87.2	69.2	46.8	23.3	63.9	3.0
19	3	6	戦国大名	中世の日本	資料活用	イ	39.5	85.5	55.2	19.6	2.0	83.5	29.5
20	3	7	江戸幕府の大名統制	近世の日本	資料活用	ア	82.4	99.4	96.7	80.0	35.9	63.5	4.8
21	3	7	江戸幕府の大名統制	近世の日本	思考判断	イ	42.3	90.2	58.8	21.6	2.9	87.3	23.2
22	4	1	都道府県の位置	地域の規模に応じた調査	知識・理解	ア	89.5	99.0	97.1	90.2	58.8	40.2	1.3
23	4	2	ポルトガルと日本	世界と日本の地域構成	知識・理解	ア	38.3	69.6	42.3	29.4	17.1	52.5	3.3
24	4	3	キリスト教への対応	近世の日本	資料活用	イ	23.8	66.5	29.9	8.4	1.2	65.3	27.2
25	4	4	伊東マンショの航路	世界と日本の地域構成	資料活用	イ	29.7	76.3	39.5	11.4	1.5	74.8	3.8
26	5	1	地域の結びつき	地域の規模に応じた調査	資料活用	ウ	44.2	87.9	59.3	26.6	5.0	82.9	23.5
27	5	2	地域の課題	地域の規模に応じた調査	思考判断	ウ	46.6	86.0	62.3	30.8	6.0	80.0	31.4
28	5	2	地域の課題	地域の規模に応じた調査	思考判断	ウ	15.8	44.6	19.1	6.2	0.5	44.1	38.6
29	6	1	平城京と平安京	古代までの日本	知識・理解	イ	66.6	92.1	79.3	58.3	29.7	62.4	4.1
30	6	2	海洋航路と海流	地域の規模に応じた調査	思考判断	ウ	27.6	64.3	35.4	14.3	2.7	61.6	27.8
31	6	3	平城京と平安京	古代までの日本	資料活用	イ	48.4	87.5	64.9	32.0	8.2	79.3	27.7
32	6	3	平城京と平安京	古代までの日本	思考判断	ウ	18.5	50.3	23.7	6.8	0.7	49.6	37.4

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



目次へ

■ 調査問題の趣旨・内容

- 知識・理解** — 地理的・歴史的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■日本の標準時や日本の領域について理解する。
■古代の文化や律令国家の社会のようすについて理解する。
- 資料活用** — 地理的・歴史的事象に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができるかどうかをみる問題。
(例) ■地形図を基に、地域の変化の原因を読み取る。
■藩の財政に関する資料を基に、参勤交代の目的について説明する。
- 思考・判断** — 複数の資料から関連や背景を読み取り、多面的・多角的に考察することができるかどうかをみる問題。
(例) ■東京都への一極集中に関する資料を基に、地域の課題について考察する。
■平城京と平安京に関する資料を基に、当時の政治について考察する。

■ 課題等

世界と日本の地域構成

- ◇ 日本の標準時に関する問題（大問1小問4）については、設問別通過率71.6%であり、領域の目標値73.3%とほぼ同じである。
- ◆ 地球上の各地点の位置を示す緯線に関する理解に課題がある。
- ◆ 時差と経度に関する理解に課題がある。

地域の規模に応じた調査

- ◆ 地形図上の長さから、実際の距離を求めることに課題がある。
- ◆ 東京都への一極集中に関する資料を基に、地域の課題を設定した上で、その解決方法について考察することに課題がある。

古代までの日本

- ◆ 仏教に関する資料から、飛鳥文化の特色を考えることに課題がある。
- ◆ 律令体制に基づく社会の変化に関する理解に課題がある。
- ◆ 平城京と平安京の施設の違いを示す資料を読み取り、奈良時代の政治との関連について考察することに課題がある。

中世の日本

- ◆ 分国法の資料から、下剋上の風潮の中で、戦国大名が分国法を定めた理由を考えることに課題がある。

近世の日本

- ◇ 藩の財政に関する資料から、参勤交代を示す資料を選択する問題（大問3小問7）については、82.4%の設問別通過率であり、この領域の目標値71.7%をかなり上回っている。
- ◆ キリスト教が禁止されたにもかかわらず、キリシタン人口が増加していった理由を、国内のキリスト教に関する年表から考察することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

世界と日本の地域構成

○ 地球儀や様々な地図の活用を重視

- ・ 地球儀と各種の地図を併用して、それぞれの特徴を意識させながら、地域構成や2地点間の時差について理解を促すとともに、緯線や経線、時差などについては、生徒が理解しているかどうかを、繰り返し確認することが重要である。

地域の規模に応じた調査

○ 地形図やグラフなどの資料を様々な角度から読み取る学習を重視

- ・ 地形図における2地点間の実際の距離等を求める技能は、日常生活においても必要になることから、縮尺や方位、地図記号などの基本的な知識を身に付けさせることが重要である。

○ 資料から課題を設定したり、調査してまとめたりする学習を重視

- ・ 地理的分野の学習では、なぜこの地域にはこのような地理的事象が見られるのかという問いかけを基に、資料から課題を発見したり、設定したりする学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を培うことが大切である。

古代までの日本

○ 関心ある主題を設定しまとめる活動を通して、歴史を学ぶ意欲を高めることを重視

- ・ 歴史的分野の学習では、関心ある主題を設定し、複数の資料を比較して、それぞれの特色や変化に気付かせながら、歴史的事象についてまとめる作業的な学習場面を設けることが大切である。
- ・ 修学旅行等において、社会科との関連があるものについては、授業等で取り上げ、生活と密接につながりをもった学習として展開することで、生徒の関心を高めるよう工夫することが大切である。

中世の日本

○ 資料の読み取り等を通して、歴史的事象についての理解を深める学習を重視

- ・ 重要な歴史的事象については、様々な資料を活用して、多面的・多角的に考察させ、適切に表現させることを通して、その理解の定着を確実に図る必要がある。

近世の日本

○ 資料の暗記ではなく、資料から読み取る力を身に付ける学習を重視

- ・ 絵画や建築物の名称や作者などを覚える学習だけでなく、グラフや数字で示された資料にも多くふれさせ、その資料が示している時代背景や、政治・経済・文化との関連など、資料から多面的・多角的に読み取る力を身に付けさせることが大切である。

○ 地理的事象との関連や世界の歴史を背景に理解させる学習を重視

- ・ 歴史の舞台と地理的な事柄との関わりを配慮したり、地理的条件に着目して取り扱ったりするなど、歴史と地理の連携を踏まえた指導の工夫が必要である。
- ・ 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れと特色については、その関連を重視し、多面的・多角的な見方・考え方を身に付けさせることが大切である。

3 中学校2年:数 学

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

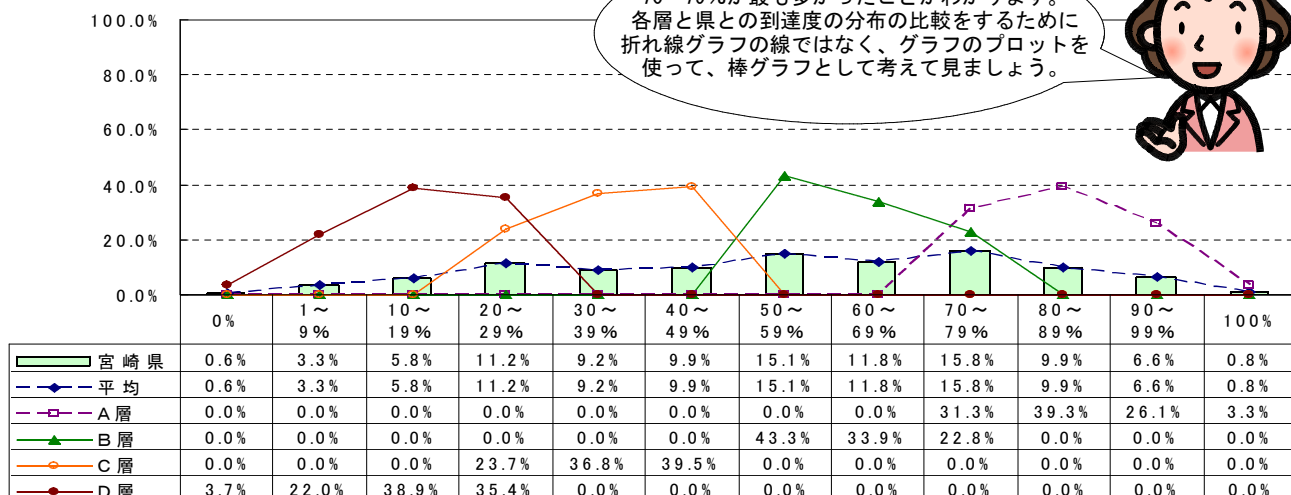
観 点・領 域・分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等			
				A 層	B 層	C 層	D 層
平均到達度	観 点	教 科 全 体	54.6	85.5	61.9	37.1	15.0
		表 現・処 理	63.5	92.9	75.2	45.5	16.4
		知 識・理 解	59.6	87.9	66.8	44.0	21.3
		数 学 的 な 考 え 方	34.9	71.1	35.4	15.6	5.1
	領 域	数 と 式	63.6	90.8	73.4	48.5	19.9
		関 数	63.0	93.8	73.9	43.7	18.3
		図 形	36.8	73.4	37.9	16.9	6.0
		資 料 の 活 用	32.9	57.9	34.6	20.9	6.9
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	63.2	90.4	72.2	47.7	22.2
		課 題 を 解 決 す る 力	53.3	87.5	61.7	33.0	10.1
活 用 す る 力		25.2	59.0	21.9	9.0	3.3	
達成率	観 点	教 科 全 体	37.2	100.0	34.6	0.0	0.0
		表 現・処 理	51.9	99.9	73.8	4.3	0.0
		知 識・理 解	42.1	96.5	48.1	4.1	0.0
		数 学 的 な 考 え 方	19.7	69.2	6.4	0.1	0.0
	領 域	数 と 式	50.8	99.4	68.9	7.1	0.0
		関 数	45.7	97.2	56.9	5.6	0.1
		図 形	26.4	84.7	14.3	0.4	0.0
		資 料 の 活 用	32.9	57.9	34.6	20.9	6.9
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	43.9	98.7	53.0	2.2	0.0
		課 題 を 解 決 す る 力	44.2	99.7	53.8	1.3	0.0
		活 用 す る 力	15.1	48.7	7.3	1.0	0.2

目標値	観 点	教科全体	65.4
		表現・処理	67.9
		知識・理解	70.0
		数学的な考え方	56.1
	領 域	数と式	68.6
		関数	70.6
		図形	58.0
		資料の活用	50.0
	分 類	基礎的・基本的な内容	71.6
		課題を解決する力	62.1
		活用する力	52.5



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

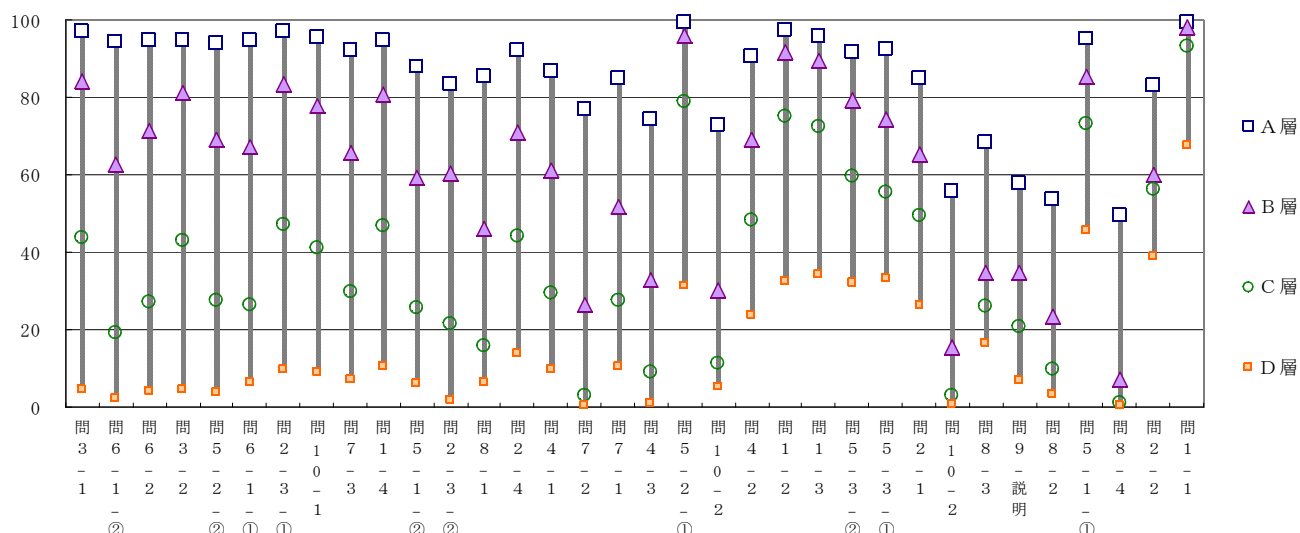
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し 番号	大問	小問											
1	1	1	正の数、負の数の加法	数と式	表現・処理	ア	92.6	99.2	98.1	93.2	67.5	31.7	0.3
2	1	2	数の減法・除法の計算	数と式	表現・処理	ア	80.1	97.2	91.7	75.1	32.4	64.8	0.9
3	1	3	数の累乗と乗法計算	数と式	表現・処理	ア	78.5	95.7	89.4	72.4	34.4	61.3	1.5
4	1	4	文字式の計算	数と式	表現・処理	ア	65.2	94.7	80.7	46.8	10.4	84.3	4.0
5	2	1	絶対値	数と式	知識・理解	ア	60.5	85.0	65.4	49.4	26.4	58.6	1.1
6	2	2	数の大小関係	数と式	知識・理解	ア	61.8	83.0	60.1	56.4	38.9	44.1	1.4
7	2	3①	文字式の意味	数と式	表現・処理	イ	66.8	97.0	83.4	47.1	10.0	87.0	8.2
8	2	3②	文字式の意味	数と式	表現・処理	イ	47.6	83.3	60.2	21.4	2.0	81.3	11.6
9	2	4	文字式の意味	数と式	表現・処理	イ	61.0	92.2	70.8	44.0	13.9	78.3	5.0
10	3	1	一次方程式の立式	数と式	表現・処理	ア	65.3	96.9	84.1	43.7	4.4	92.5	14.9
11	3	2	一次方程式の解法	数と式	表現・処理	イ	63.6	94.8	81.0	43.1	4.5	90.3	16.1
12	4	1	数の増え方の規則性	数と式	表現・処理	イ	52.0	86.9	61.0	29.4	9.7	77.2	7.2
13	4	2	数の増え方の規則性	数と式	表現・処理	イ	62.5	90.5	69.2	48.2	23.6	66.9	5.7
14	4	3	文字式の利用	数と式	数学的な考え方	イ	32.7	74.5	32.9	9.1	1.0	73.5	24.0
15	5	1①	座標の読み	関数	知識・理解	ア	78.7	95.0	85.3	73.1	45.6	49.4	2.0
16	5	1②	座標内の面積	関数	数学的な考え方	イ	50.0	87.9	59.1	25.6	6.0	81.9	16.9
17	5	2①	比例の意味	関数	知識・理解	イ	82.9	99.2	96.0	78.8	31.4	67.8	5.1
18	5	2②	比例の意味	関数	知識・理解	ア	55.1	93.8	68.9	27.4	3.8	90.0	10.0
19	5	3①	比例のグラフ	関数	知識・理解	ア	68.1	92.4	74.5	55.6	33.1	59.3	3.5
20	5	3②	比例のグラフ	関数	知識・理解	ア	70.5	91.8	79.4	59.5	32.0	59.8	4.2
21	6	1①	反比例の意味	関数	知識・理解	ア	54.9	94.7	67.2	26.6	6.5	88.2	11.5
22	6	1②	反比例の意味	関数	知識・理解	ア	50.8	94.4	62.8	19.2	2.3	92.1	12.6
23	6	2	反比例のグラフ	関数	表現・処理	ア	56.2	94.8	71.4	27.3	4.0	90.8	9.7
24	7	1	点対称の意味	図形	知識・理解	ア	47.8	84.8	51.7	27.5	10.5	74.3	1.2
25	7	2	平面の面積	図形	数学的な考え方	イ	29.4	77.0	26.3	3.0	0.2	76.8	21.6
26	7	3	接線の作図	図形	表現・処理	イ	54.6	92.1	65.5	30.0	7.3	84.8	13.2
27	8	1	立体の体積	図形	表現・処理	イ	42.4	85.2	46.2	15.7	6.3	78.9	14.1
28	8	2	切り口の図形	図形	知識・理解	ア	24.6	53.4	23.4	10.0	3.5	49.9	9.9
29	8	3	円錐の展開図	図形	数学的な考え方	イ	38.3	68.3	34.7	26.0	16.5	51.8	7.7
30	8	4	展開図の選択理由	図形	数学的な考え方	ウ	15.3	49.3	7.3	1.1	0.2	49.1	23.1
31	9	説明	代表値	資料の活用	数学的な考え方	ウ	32.9	57.9	34.6	20.9	6.9	51.0	23.5
32	10	1	図形の面積	図形	数学的な考え方	イ	62.8	95.6	77.8	41.1	9.2	86.4	16.3
33	10	2	周の長さ	図形	数学的な考え方	ウ	32.5	72.8	30.1	11.3	5.3	67.5	30.7
34	10	2	周の長さの求め方	図形	数学的な考え方	ウ	20.3	55.8	15.5	2.9	0.7	55.1	45.5

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 表現・処理** — 事象を数理的に処理し、文字式、グラフ、作図などを用いて表現することができるかどうかをみる問題。
(例) ■数の四則計算、図形の面積や円の体積を求める。
■比例、反比例のグラフをかくことや接線を作図する。
- 知識・理解** — 数と式、関数、図形、資料の活用領域における基礎・基本的な内容を理解しているかどうかをみる問題。
(例) ■数の大小関係や文字式の意味を理解する。
■比例、反比例の関係について理解する。
- 見方・考え方** — 事象を数学的にとらえ、数式や数量関係を用いて、論理的に問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■計算した値を用いて、論理的に判断したり、説明したりする。
■条件や性質を見だし、問題の解決を図る。

■ 課題等

数 と 式

- ◇ 正の数、負の数の減法を問う問題（大問1小問1）については、設問別通過率92.6%であり、領域の目標値68.6%をかなり上回っている。
- ◇ 数の減法・除法及び数の累乗と乗法を問う問題（大問1小問2、大問1小問3）については、設問別通過率がそれぞれ80.1%、78.5%であり、領域の目標値68.6%をかなり上回っている。
- ◆ 絶対値の意味を理解することに課題がある。（大問2小問1）
- ◆ 図形の面積を、文字を用いて表現することに課題がある。（大問2小問3②）
- ◆ 規則性を考えて表現・処理することに課題がある。（大問4小問1）
- ◆ 文字式を用いて表現することに課題がある。（大問4小問3）

関 数

- ◇ 座標の読みを問う問題（大問5小問1①）については、設問別通過率78.7%であり、領域の目標値70.6%を上回っている。
- ◇ 比例の意味を問う問題（大問5小問2①）については、設問別通過率82.9%であり、領域の目標値70.6%をかなり上回っている。
- ◆ 反比例の関係を理解することに課題がある。（大問6小問1）
- ◆ 事象の中の数量関係を把握し、問題を解決することに課題がある。（大問5小問1②）

図 形

- ◇ 最も大きくなる面積を問う問題（大問10小問1）については、設問別通過率62.8%であり、領域の目標値58.0%を上回っている。
- ◆ 接線の作図を問う問題（大問7小問3）については、設問別通過率54.6%であり、領域の目標値58.0%をやや下回っている。昨年度の垂線の作図を問う問題における設問別通過率73.6%と比較するとかなり下回っている。この項目は小学校でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 平面の面積を問う問題（大問7小問2）については、設問別通過率29.4%であり、領域の目標値58.0%をかなり下回っている。
- ◆ 図形の面積及び立体の体積を求めることに、特に課題がある。（大問7小問2、大問8小問1）この項目は小学校でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 立体の切り口や展開図の知識・理解に課題がある。（大問8小問2、3、4）
- ◆ 具体的な数値を求め、比較し、判断・表現することに課題がある。（大問8小問3）

資料の活用

- ◆ 代表値を用いて自分の考えを説明する問題（大問9）については、設問別通過率32.9%であり、領域の目標値50.0%をかなり下回っている。
- ◆ 具体的な数値を用いて比較し、判断・表現することに課題がある。（大問9）

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

数 と 式

- 基礎的・基本的な事項を定着させ、計算に習熟させる学習の重視
 - ・ 負の数や指数を含む四則計算を確実に定着させることが大切である。
 - ・ 数の種類と大小関係、絶対値の意味について確実に理解させることが大切である。
 - ・ 様々な事象を文字式で表現することや、文字式の表す意味を具体的な事象に関連させて理解させることが重要である。
- 方程式の表す意味と具体的な場面との関係を理解させる学習の充実
 - ・ 一次方程式の意味を理解させ、具体的な問題において、立式させ、その解を求めることができるように指導することが大切である。
- 数量関係や法則などを文字を用いて表現させたり、式を読み取らせたりする学習の充実
 - ・ 文字式の意味を理解させ、具体的な場面において、数量関係や法則などを文字を用いて表現できるように指導することが重要である。

関 数

- 比例、反比例の意味やグラフとの関係を理解させる学習の重視
 - ・ 事象の中における比例や反比例の関係を見だし、表現することができるように指導することが大切である。
 - ・ 二つの数量の変化や対応関係の特徴を、表、式やグラフを用いて理解させることが重要である。

図 形

- 平面及び空間における図形の基本事項を定着させ、面積や体積を求める計算を習熟させる学習の充実
 - ・ 平面や空間図形の基本性質を理解させ、身近な事象を図形の性質と関連させながらとらえさせることが必要である。
 - ・ 作図の基本的な技能を身に付けさせ、図形に関する見方や考え方を深め、論理的に考えさせるように指導することが大切である。
 - ・ 基本的な面積の求め方を理解させることや、図形の中の対称性や等しい面積の関係に気付かせること、考察したことを用いて面積を求めることができるように指導することが、特に重要である。
 - ・ 立体を平面図形の動きとして理解させ、基本的な体積を求めることができるように指導することが大切である。
 - ・ 立体の切り口や展開図などの立体の基本的な性質を理解させることが重要である。
- 図形の性質を見いだしたり、数学的な表現を用いたりして、自分なりに説明し伝え合う活動をさせる学習の重視
 - ・ 問題の解決を図るために、具体的な数値を用いて比較検討したり、判断し説明したりできるように指導することが重要である。
 - ・ 事象の中における課題を、数学的な見方や考え方でとらえ、その解決を図るために、数値や式を用いて、自分の考えを説明することができるように指導することが重要である。

資料の活用

- 資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や散らばりに着目してその資料の傾向を読み取らせる学習の充実
 - ・ 平均値、中央値、最頻値などの代表値の必要性と意味を理解させ、その値を求めることができるようにすることが重要である。
 - ・ 代表値を用いる場合は、資料の特徴や代表値を用いる目的を明らかにして、どのような代表値を用いるかを判断することができるように指導することが重要である。
 - ・ ヒストグラムや代表値を用いて、資料の傾向をとらえて説明することができるように指導することが大切である。

4 中学校2年:理 科

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

観 点 ・ 領 域 ・ 分 類			全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等				
				A 層	B 層	C 層	D 層	
平 均 到 達 度	観 点	教 科 全 体	45.7	83.3	60.6	36.7	16.9	
		技 能 ・ 表 現	48.9	86.8	65.3	39.8	17.6	
		知 識 ・ 理 解	50.2	88.6	65.5	41.4	19.6	
		科 学 的 な 思 考	38.3	75.0	51.5	29.0	13.5	
	領 域	生 物 的 領 域	54.5	86.4	68.9	48.1	24.8	
		地 学 的 領 域	42.4	83.2	58.2	31.6	13.6	
		化 学 的 領 域	54.1	94.7	75.0	43.7	16.6	
		物 理 的 領 域	33.6	72.1	43.9	24.5	12.3	
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	48.2	87.2	64.4	38.9	17.1	
		課 題 を 解 決 す る 力	46.0	80.1	59.0	38.2	19.8	
		活 用 す る 力	34.4	79.8	50.8	22.1	5.1	
達 成 率	観 点	教 科 全 体	18.8	100.0	23.9	0.0	0.0	
		技 能 ・ 表 現	24.9	94.0	41.9	2.6	0.0	
		知 識 ・ 理 解	21.5	92.8	33.0	1.7	0.0	
		科 学 的 な 思 考	18.7	86.8	27.0	1.0	0.0	
	領 域	生 物 的 領 域	37.1	94.8	62.4	17.1	0.5	
		地 学 的 領 域	19.9	79.2	30.6	3.5	0.1	
		化 学 的 領 域	30.7	94.5	53.7	7.9	0.0	
		物 理 的 領 域	17.2	86.2	22.2	1.4	0.0	
	分 類	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 内 容	20.7	95.6	31.2	0.3	0.0	
		課 題 を 解 決 す る 力	17.4	87.3	23.7	0.3	0.0	
			活 用 す る 力	32.0	88.1	51.3	14.5	1.7

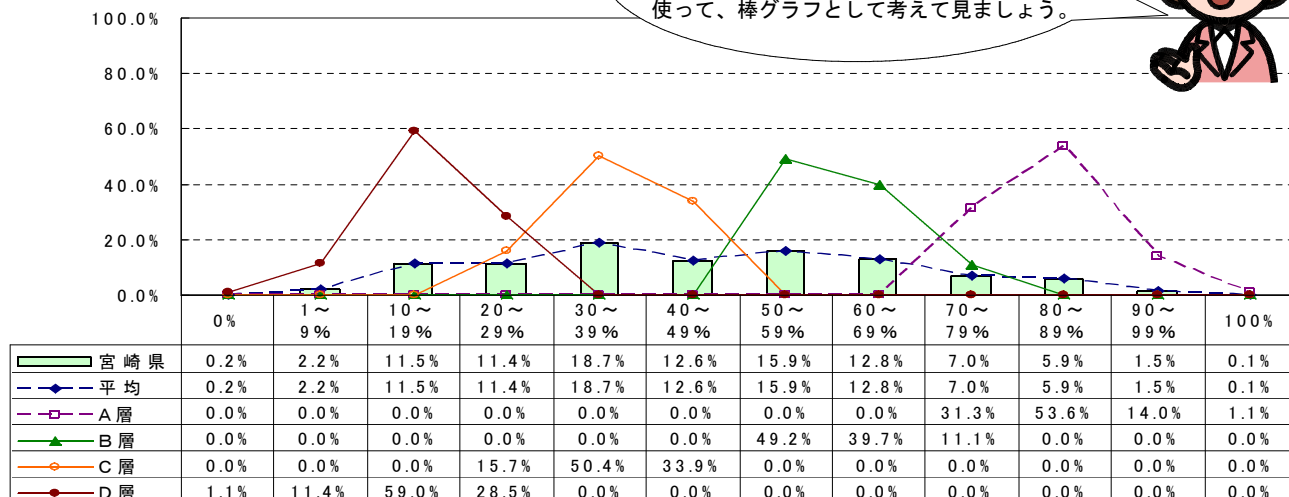
目標値	観 点	教科全体	65.6
		技能・表現	68.8
		知識・理解	67.8
		科学的な思考	60.6
	領 域	生物的領域	65.7
		地学的領域	72.0
		化学的領域	73.3
		物理的領域	55.6
	分 類	基礎的・基本的な内容	70.8
		課題を解決する力	65.9
		活用する力	43.3



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況

30～39%が最も多かったことがわかります。
各層と県との到達度の分布の比較をするために
折れ線グラフの線ではなく、グラフのプロットを
使って、棒グラフとして考えてみましょう。



目次へ

■ 設問別解答状況一覧

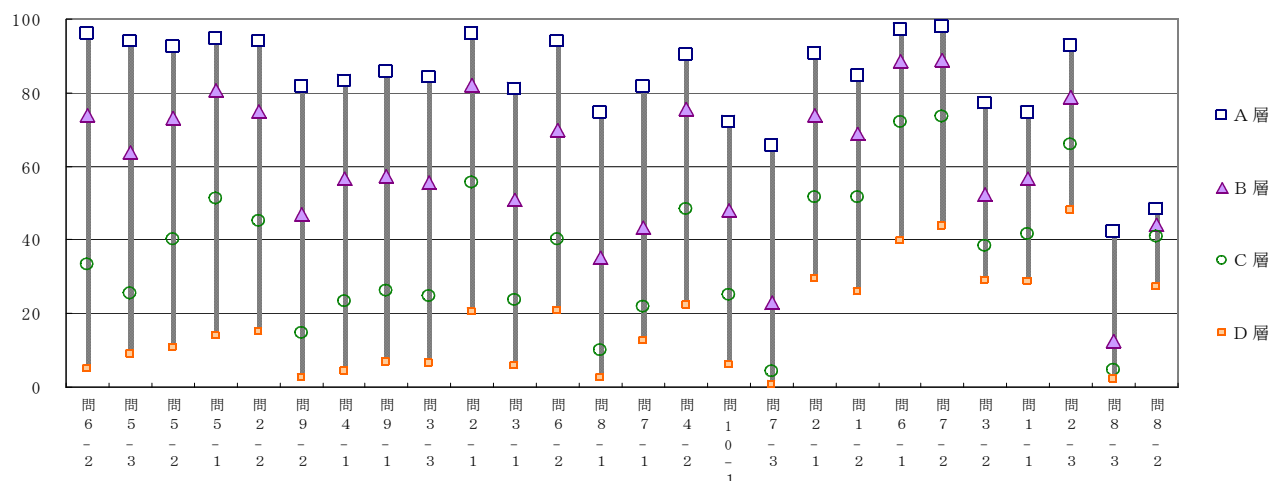
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し 番号	大問	小問											
1	1	1	ルーペの使い方	生物的領域	技能・表現	ア	47.6	74.7	56.6	41.6	28.6	46.1	0.1
2	1	2	スケッチのしかた	生物的領域	技能・表現	イ	55.7	84.7	68.8	51.6	25.7	59.0	2.7
3	2	1	茎のつくり	生物的領域	知識・理解	ア	58.8	90.8	73.7	51.7	29.5	61.3	0.8
4	2	1	茎のつくり	生物的領域	知識・理解	ア	61.7	95.9	82.0	55.5	20.6	75.3	5.7
5	2	2	双子葉類のなかま	生物的領域	知識・理解	イ	54.2	94.0	74.8	45.0	15.0	79.0	6.0
6	2	3	単子葉類の根のようす	生物的領域	技能・表現	イ	69.5	92.8	78.7	65.9	48.2	44.6	2.5
7	3	1	地層のようす	地学的領域	知識・理解	ア	35.3	81.0	51.0	23.8	5.7	75.3	13.9
8	3	2	地層のでき方	地学的領域	科学的な思考	イ	45.2	77.1	52.2	38.2	28.9	48.2	0.7
9	3	3	地層と過去のようす	地学的領域	技能・表現	ア	37.6	84.3	55.4	24.6	6.5	77.8	4.6
10	4	1	火成岩について	地学的領域	科学的な思考	イ	36.9	83.2	56.5	23.2	4.4	78.8	6.2
11	4	2	火山岩のできる場所について	地学的領域	科学的な思考	イ	56.8	90.4	75.7	48.4	22.3	68.1	2.3
12	5	1	金属について	化学的領域	技能・表現	ア	58.4	94.8	80.8	51.3	14.0	80.8	11.1
13	5	2	体積の測り方について	化学的領域	技能・表現	イ	50.8	92.5	73.0	40.1	10.7	81.8	9.1
14	5	3	密度について	化学的領域	知識・理解	ア	42.2	94.0	63.8	25.4	9.1	84.9	7.0
15	6	1	指示薬について	化学的領域	知識・理解	ア	73.8	97.2	88.5	72.0	39.8	57.4	2.5
16	6	2	気体の捕集について	化学的領域	科学的な思考	イ	51.8	93.9	69.9	40.0	20.8	73.1	1.3
17	6	2	気体の捕集について	化学的領域	技能・表現	ア	47.8	96.1	74.0	33.3	4.9	91.2	5.9
18	7	1	圧力について	物理的領域	知識・理解	イ	33.6	81.6	43.5	21.8	12.6	69.0	1.0
19	7	2	圧力について	物理的領域	知識・理解	ア	75.2	97.7	88.8	73.3	43.7	54.0	2.0
20	7	3	圧力について	物理的領域	知識・理解	ア	16.4	65.5	23.0	4.3	0.7	64.8	11.9
21	8	1	光の進み方について	物理的領域	技能・表現	ア	23.7	74.4	35.0	10.0	2.4	72.0	4.8
22	8	2	光の進み方について	物理的領域	科学的な思考	イ	40.0	48.3	44.1	40.7	27.4	20.9	2.1
23	8	3	光の進み方について	物理的領域	科学的な思考	イ	10.8	42.3	12.5	4.7	2.0	40.3	1.6
24	9	1	音について	物理的領域	科学的な思考	ウ	39.1	85.6	57.5	26.3	6.8	78.8	12.5
25	9	2	音について	物理的領域	科学的な思考	ウ	30.2	81.6	46.9	14.8	2.6	79.0	20.6
26	10	1	光合成について	生物的領域	科学的な思考	ウ	34.0	72.1	48.0	25.2	6.0	66.1	13.6

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別：各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 技能・表現** — 観察・実験の基本操作の技能とともに、自然の事物・現象を科学的に探究し、そこから導き出した考えを表現できるかどうかをみる問題。
(例) ■ルーペの使い方を理解する。
■光の進み方を理解する。
- 知識・理解** — 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■密度を求め、物質を特定することができる。
■圧力に関する計算ができる。
- 科学的な思考** — 自然の事物・現象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■実験結果を基に、火成岩のつくりを説明できる。
■光の屈折や全反射について理解する。

■ 課題等

生物学的領域

- ◆ ルーペの使い方を問う問題（大問1小問1）については、設問別通過率47.6%であり、観点（技能・表現）の目標値68.8%をかなり下回っている。小学校も同様の傾向がみられる。
- ◆ 双子葉類のなかまや維管束のつくりを葉脈や植物名から判断することに課題がある。
- ◆ 大気中における二酸化炭素濃度の経年変化の理由を説明する問題（大問10）については、設問別通過率34.0%であり、観点（科学的な思考）の目標値60.6%をかなり下回っている。与えられた資料を基に、光合成の知識を活用して説明することに課題がある。

地学的領域

- ◆ 柱状図の名称やたい積物を判断する問題（大問3小問1、2）については、それぞれ設問別通過率35.3%、45.2%であり、領域の目標値72.0%をかなり下回っている。
- ◆ 実験結果を基に、火成岩のつくりを説明する問題（大問4小問1）については、設問別通過率36.9%であり、領域の目標値72.0%をかなり下回っている。モデル実験において、実験結果を整理して、わかることを考察することに課題がある。

化学的領域

- ◆ 密度に関することや、適切な気体の捕集方法を選び、その理由を説明することに課題がある。
- ◆ 実験結果を基に、密度を求め、物質を特定する問題（大問5小問3）については、設問別通過率42.2%であり、領域の目標値73.3%をかなり下回っている。

物理的領域

- ◆ 力と圧力の概念の理解に課題がある。
- ◆ 光の屈折による現象を選択する問題（大問8小問3）については、設問別通過率10.8%であり、領域の目標値55.6%をかなり下回っている。
- ◆ 鍵盤ハーモニカのリードのつくりと音の高さの関係を、振動数と結び付けて説明する問題（大問9小問2）については、設問別通過率30.2%であり、観点（科学的な思考）の目標値60.6%をかなり下回っている。音に関係する身近な現象を、音の概念と結び付けて説明することに課題がある。無答率も20.6%で最も高い。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています

■ 指導改善のポイント

生物学的領域

- ルーペ等、観察器具の使い方を理解させることを重視
 - ・ 様々な対象物を観察させることで、ルーペや虫めがねなどの適切な使い方を理解させることが大切である。
- 植物のつくりをおさえ、なかま分けの着目点を理解させることを重視
 - ・ 観察や実験などを通して、植物のつくりや特徴を確実に理解させた上で、身近な植物等のなかま分けを実際に行い、知識と結び付けさせることが大切である。
- 新たな情報を既存の知識と結び付けさせることを重視
 - ・ 大気中における二酸化炭素濃度の経年変化の理由を、与えられた資料を基に、光合成の知識を活用して説明させる問題のように、与えられた情報を項目毎に整理し、そこから読み取ることができることを抜き出させ、それらと知識を結び付けて、疑問の解決につながる答えを書かせることが大切である。

地学的領域

- 地層のでき方を理解させることを重視
 - ・ 粒の大きさによる沈み方の違いを調べる実験を通して、地層を構成しているたい積物を区別させる等、地層のでき方を理解させることが大切である。
- 火成岩のつくりとでき方を理解させることを重視
 - ・ 火成岩のつくりを理解させ、冷やし方の違いによる結晶のでき方のちがいを調べるモデル実験などを通して、2種類の火成岩の特徴やでき方を説明できるようにすることが大切である。

化学的領域

- 密度によって物質を区別できるようにすることを重視
 - ・ 物質の質量や体積を求める技能を身に付けさせ、密度を求めることができるようにし、様々な物質の密度を基に、物質を区別できるようにすることが大切である。
- いろいろな気体の捕集方法を理解させることを重視
 - ・ いろいろな気体の性質を理解させるとともに、発生させる気体の性質に合った捕集方法を選択させたり、選択した理由を説明させたりすることが大切である。

物理的領域

- 物体が押す力と圧力の定義を理解させることを重視
 - ・ 物体が押す力と圧力の定義を理解させ、圧力についてはその値を求められるようにし、確実に力や面積の単位を変換できるようにすることが大切である。
- 空気と水やガラスなどの境界での光の進み方を理解させることを重視
 - ・ 光の屈折や全反射について理解させ、光の進み方によって起こる自然現象を具体的に説明できるようにすることが大切である。
- 新たな情報を既存の知識と結び付けさせることを重視
 - ・ 鍵盤ハーモニカを題材にして、振幅や振動数の知識を活用して音の大きさを説明させたり、リードの特徴を考察させたりする問題のように、与えられた情報から読み取ることができることを抜き出させ、既存の知識と結び付けて、疑問を解決させたり、答えを書かせたりすることが大切である。

5 中学校2年:英 語

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

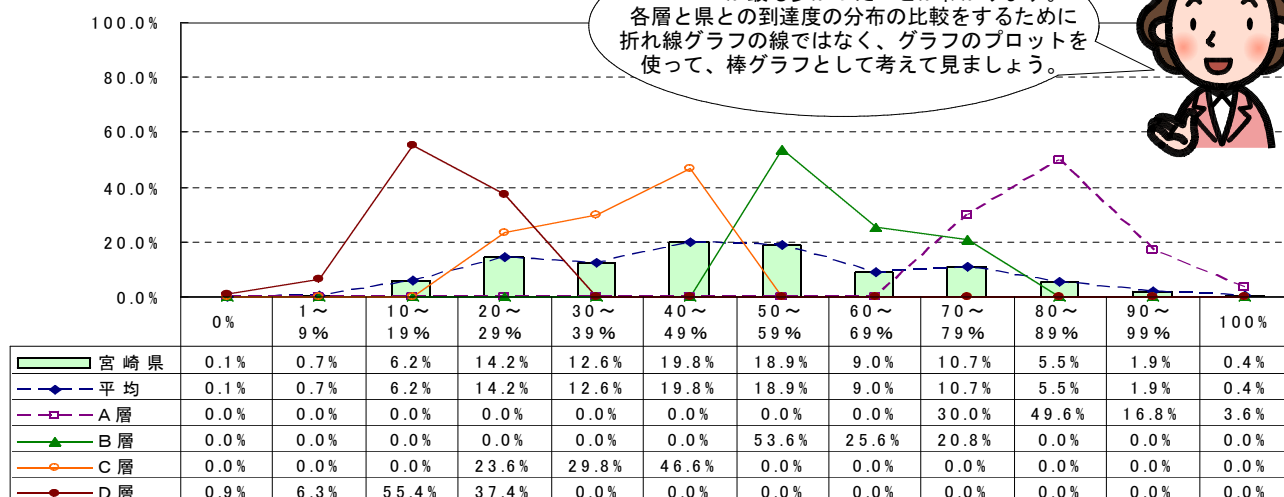
観 点・領 域・分 類			全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等			
				A層	B層	C層	D層
平均到達度	観 点	教科全体	49.0	84.7	61.3	37.7	17.6
		理 解	53.7	85.5	64.3	44.6	23.1
		知識・理 解	40.6	85.9	59.7	22.7	2.5
		表 現	31.8	79.5	47.0	14.6	1.4
	領 域	聞くこと	65.4	87.1	73.7	60.1	38.1
		読むこと	44.2	84.3	56.6	32.0	10.7
		書くこと	35.6	82.2	52.4	18.1	1.9
	分 類	基礎的・基本的な内容	61.5	88.0	72.9	53.2	30.3
		課題を解決する力	41.7	83.0	53.6	29.3	9.6
活用する力		31.8	79.5	47.0	14.6	1.4	
達成率	観 点	教科全体	18.5	100.0	20.8	0.0	0.0
		理 解	17.1	97.4	17.6	0.0	0.0
		知識・理 解	41.5	96.9	67.3	16.3	0.3
		表 現	21.5	83.8	32.3	1.8	0.0
	領 域	聞くこと	15.0	65.5	19.3	2.0	0.0
		読むこと	17.6	91.5	20.5	0.2	0.0
		書くこと	20.3	90.0	28.4	0.7	0.0
	分 類	基礎的・基本的な内容	19.2	85.1	26.8	0.5	0.0
		課題を解決する力	15.4	88.6	15.6	0.0	0.0
		活用する力	21.5	83.8	32.3	1.8	0.0

目 標 値	観 点	教 科 全 体	70.0
		理 解	72.3
		知 識・理 解	61.7
		表 現	65.0
	領 域	聞 く 事 物	78.9
		読 む 事 物	66.8
		書 く 事 物	63.6
	分 類	基 礎 的・基 本 的 な 内 容	76.2
		課 題 を 解 決 す る 力	65.0
活 用 す る 力		65.0	



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

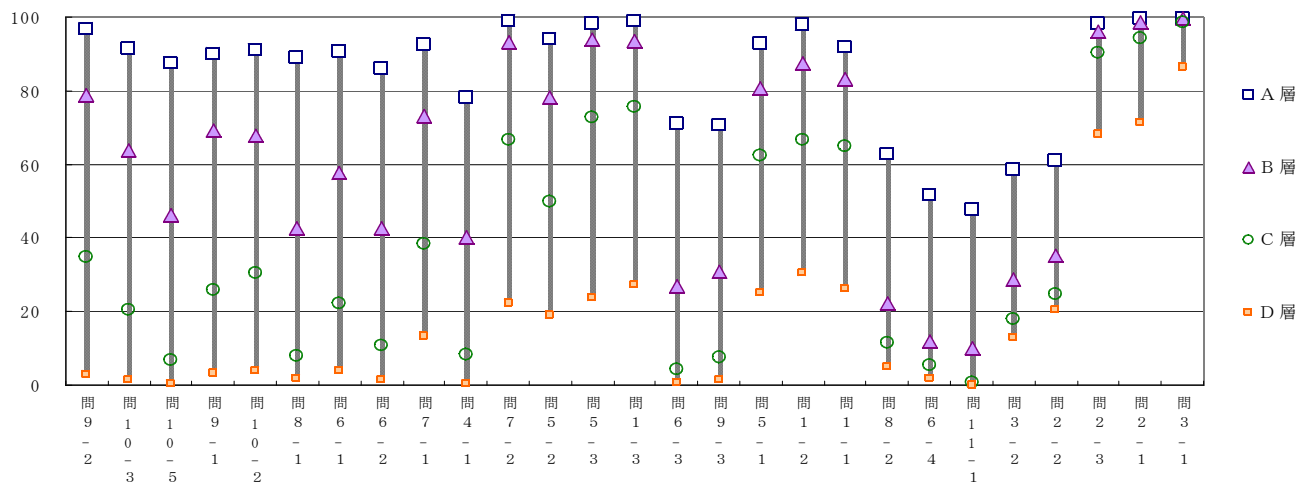
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	yes-no疑問文に対する応答	聞くこと	理解	ア	70.0	91.6	83.3	64.7	26.2	65.4	0.4
2	1	2	wh-疑問文に対する応答	聞くこと	理解	ア	73.6	98.0	87.6	66.7	30.6	67.4	0.3
3	1	3	身近な慣用表現に対する応答	聞くこと	理解	ア	79.1	98.8	93.6	75.6	27.1	71.7	0.2
4	2	1	スポーツ名の理解	聞くこと	理解	ア	93.8	99.8	98.6	94.2	71.3	28.5	0.1
5	2	2	日付に関する序数の理解	聞くこと	理解	ア	32.0	61.1	35.3	24.6	20.4	40.7	0.2
6	2	3	交通手段の名称の理解	聞くこと	理解	ア	90.7	98.3	95.9	90.2	68.2	30.1	0.2
7	3	1	数詞の理解	聞くこと	理解	ア	97.7	99.8	99.6	98.5	86.4	13.4	0.1
8	3	2	不定冠詞及び副詞の理解	聞くこと	理解	ア	25.6	58.4	28.6	17.9	12.9	45.5	0.2
9	4	1	聞きとった英文の書きとり	聞くこと	理解	イ	26.4	78.1	40.1	8.2	0.2	77.9	11.8
10	5	1	対話文の内容理解	読むこと	理解	イ	68.1	93.0	80.5	62.4	25.2	67.8	0.3
11	5	2	対話文の内容理解	読むこと	理解	イ	61.2	94.0	78.0	49.7	19.1	74.9	0.3
12	5	3	対話文の内容理解	読むこと	理解	イ	77.6	98.3	93.9	72.9	23.5	74.8	0.5
13	6	1	英文(手紙文)の内容理解	読むこと	理解	イ	40.4	90.6	57.8	22.3	4.0	86.6	9.8
14	6	2	英文(手紙文)の内容理解	読むこと	理解	イ	29.4	85.9	42.6	10.9	1.5	84.4	10.6
15	6	3	英文(手紙文)の内容理解	読むこと	理解	イ	19.3	71.1	27.0	4.2	0.7	70.4	17.3
16	6	4	英文(手紙文)の内容理解	読むこと	理解	イ	12.4	51.6	11.8	5.3	1.8	49.8	17.8
17	7	1	相手へ依頼する表現の仕方	読むこと	理解	ア	53.9	92.3	73.2	38.4	13.1	79.2	1.6
18	7	2	相手へ聞き返す表現の仕方	読むこと	理解	イ	74.6	98.8	93.1	66.7	22.1	76.7	1.5
19	8	1	辞書の使い方	読むこと	理解	イ	28.5	88.8	42.5	8.0	1.9	86.9	7.1
20	8	2	辞書の使い方	読むこと	理解	イ	20.4	62.7	22.4	11.6	5.1	57.6	7.2
21	9	1	特定数の事柄についての尋ね方	書くこと	知識・理解	ア	45.8	90.1	69.3	25.8	3.1	87.0	1.5
22	9	2	数量の尋ね方	書くこと	知識・理解	ア	53.7	96.9	79.0	34.7	2.8	94.1	1.6
23	9	3	所有・所属を表す前置詞の使い方	書くこと	知識・理解	ア	22.2	70.7	30.8	7.6	1.6	69.1	4.2
24	10	2	応答や勧誘などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	ウ	47.5	91.1	67.8	30.5	4.1	87.0	11.6
25	10	3	応答や勧誘などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	ウ	41.6	91.5	63.7	20.6	1.4	90.1	16.9
26	10	5	応答や勧誘などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	ウ	29.0	87.6	46.3	6.7	0.2	87.4	31.3
27	11	1	宮崎についての条件英作文	書くこと	表現	ウ	9.3	47.8	10.2	0.8	0.0	47.8	41.9

分類	ア	基礎的・基本的な内容を問う問題
	イ	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	ウ	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

理解	— 「聞くこと」「読むこと」について基礎的・基本的な知識が身に付いており、知識を生かして読み取ることができるかどうかをみる問題。 (例) ■英語での問いかけに適切に応答する。 ■英語を聞いて概要・要点を理解する。 ■英語を正しく聞き取り正確に書き取る。 ■英語を読んで概要・要点を理解する。 ■英語を読んで対話の流れを理解する。 ■英語を読んで対話の詳細を理解する。
知識・理解	— 英語の基本的な文構造や語順などの文法的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■与えられた英語を使って正しい語順で書く。
表現	— 英語が使われる実際の場面において、相手の行動を促したり、自分の考えや気持ち、意向を伝えたりするなど、適切に表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■与えられた場面に合うように適切に表現する。 ■英語を読んで詳細を理解し、適切に表現する。

■ 課題等

聞くこと

- ◇ 英語によるスポーツ名の理解（大問2小問1）や交通手段の名称の理解（大問2小問3）及び数詞の理解（大問3小問1）は、それぞれの設問別通過率が93.8%、90.7%、97.7%で、領域の目標値の78.9%をかなり上回っている。
- ◆ 日付けに関する英語による序数の理解（大問2小問2）は、昨年に引き続いての出題であったが、設問別通過率32.0%で、領域の目標値をかなり下回っており、語彙の充実が課題である。
- ◆ 不定冠詞及び副詞の理解（大問3小問2）や聞き取った英文の書き取り（大問4）は、それぞれの設問別通過率が25.6%、26.4%で、領域の目標値をかなり下回っており、語と語の連結による音変化を聞き取る力や文構造の理解が定着していないと思われる。

読むこと

- ◇ 対話文の内容理解（大問5小問3）は、設問別通過率が77.6%で、領域の目標値の66.8%をかなり上回っている。
- ◆ やや長めの英文（手紙文）を読んで、その概要・要点を理解することや、理解した内容を他の表現を使って書き換えること（大問6）に課題がある。すべての設問別通過率が、領域の目標値をかなり下回っている。
- ◆ 辞書の使い方（大問8小問1、2）は、それぞれの設問別通過率が28.5%、20.4%で、領域の目標値の66.8%をかなり下回っている。

書くこと

- ◆ 英語の基本的な文構造や語順などの文法的な知識の定着に課題が見られる。（大問9）所有・所属を表す前置詞ofの使い方（大問9小問3）は、昨年、一昨年に引き続いての出題であったが、設問別通過率22.2%で、領域の目標値の63.6%をかなり下回っている。
- ◆ 「書くこと」（大問10、11）に関する表現（応答や勧誘などの場面での表現の仕方、宮崎についての条件英作文）に課題がある。実際の英語の使用場面において相手に対して行動を促したり、自分の考えや気持ちを伝えたりするなど、言語の働きを理解してふさわしい表現で書くことに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類ウとの関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

聞くこと

- まとまりのある英文を聞いて、その概要や要点を適切に聞き取る指導を重視
 - ・ はじめは短い英文から、段階的に一貫性のあるまとまった英文を聞いて、キーワードをメモさせ、その概要や要点を理解できるように指導していくことが大切である。
- 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取る指導を重視
 - ・ 英語を聞き取る際、音の連結や同化、欠落など、語と語の連結による音変化の特徴に慣れ親しませるために、できるだけ自然な口調の英語を何回も聞かせていくことが大切である。
 - ・ はじめは連語や慣用表現から、段階的に教科書本文やリスニング教材等を活用して、聞き取った英語をノートに書き取らせるディクテーション活動を行うなど、「書くこと」の言語活動と有機的な関連を図る指導を行っていくことが重要である。

読むこと

- 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じることができる指導を重視
 - ・ 伝言や手紙などの文章を読む際には、特に書き手がどのような意思や考えを読み手に伝えたいのかを理解させた上で、適切に応じることができるよう、文脈や前後関係に注意しながら必要な返事を書かせるなどの指導を行っていくことが大切である。
- まとまりのある英文を読んで、大切な部分などを正確に読み取る指導を重視
 - ・ 一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、書き手の意向を正確に読み取ることができるように指導を行っていく必要がある。その際、あらかじめ手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容を尋ねる質問を行ったり、また設問の仕方を工夫したりするなどして、正確な読み取りのための指導の工夫が必要である。

書くこと

- 文法的に正しい語順や語法で書くための知識の定着を図る指導を重視
 - ・ 英語の語順や語法を生徒に理解させるために、語の配列や修飾関係の違いなどに関して英語と日本語を比較したり、必要に応じて関連する文法事項をまとめて整理したりするなどの配慮が必要である。
- 内容的にまとまりのある英文を書く指導を重視
 - ・ 具体的な言語の使用場面や状況の中で話題を設定して、考えや意見を日本語でまとめてから英語で書く練習をさせたり、自分の意向が読み手に正しく伝わるように、3～5文程度の内容的にまとまりのある英文を書かせたりするなどの活動を取り入れた指導が重要である。
 - ・ 「書くこと」の指導にあたっては、授業での自己表現活動、家庭での教科書を離れた英語学習、例えば日記を書かせたり、單元ごとの内容と関連付けてテーマを決めて書かせたりするなど、生徒の自発的な取組を促すことが大切である。また、日頃から様々な機会をとらえて、辞書を使用させることが必要である。

Ⅲ 意識調査の分析結果

Ⅲ-1 小学校

■「授業」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
1	好きな授業	① 国語	72.7	81.4	74.0	61.3	49.4	32.0
		② 社会	60.7	71.1	60.2	50.4	45.6	25.5
		③ 算数	77.2	87.0	77.8	65.5	56.6	30.4
		④ 理科	87.2	91.7	86.5	84.2	80.0	11.7
		⑤ 音楽	79.7	83.8	80.1	74.4	70.6	13.2
		⑥ 図画工作	87.6	87.3	87.7	87.9	86.6	0.7
		⑦ 体育	90.5	88.0	91.3	92.0	89.1	-1.1
		⑧ 家庭	91.6	94.3	92.3	87.7	80.9	13.4
		⑨ 総合的な学習の時間	83.4	88.3	84.2	77.3	65.3	23.0
		⑩ 道徳	75.2	76.3	75.5	73.7	69.1	7.2
		⑪ 学級活動	88.0	91.6	89.0	82.7	75.9	15.7
2	授業理解	① 国語	92.0	98.2	94.0	82.8	63.1	35.1
		② 社会	83.4	92.5	84.5	71.7	59.1	33.4
		③ 算数	87.9	96.8	89.1	76.7	60.3	36.5
		④ 理科	93.1	96.9	93.8	87.9	82.5	14.4
		⑤ 音楽	88.8	92.9	89.6	83.6	71.6	21.3
		⑥ 図画工作	94.9	96.4	95.3	92.7	87.5	8.9
		⑦ 体育	96.4	96.8	97.0	95.0	91.6	5.2
		⑧ 家庭	91.0	94.2	92.2	86.0	77.5	16.7
		⑨ 総合的な学習の時間	89.3	94.7	90.8	81.7	65.0	29.7
		⑩ 道徳	89.6	93.3	90.6	84.4	73.4	19.9
		⑪ 学級活動	92.5	96.7	93.7	86.7	71.9	24.8
3	わかりやすい授業	① 先生が一人で学級のみんを教える授業	93.7	97.5	94.3	88.5	84.1	13.4
		② 先生が何人かで学級のみんをいっしょに教える授業	90.2	93.4	91.4	85.1	77.2	16.2
		③ 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える授業	91.2	95.2	92.4	85.6	72.8	22.4
		④ コンピュータを使った授業	87.7	92.8	88.1	81.5	74.7	18.1
		⑤ 学校の先生以外の人が教える授業	77.3	84.4	77.0	69.8	67.5	16.9

- 本県の小学5年生が最も好きな授業は家庭科、わかる授業は体育であり、授業形態では「先生が一人で学級のみんを教える」形態を最も肯定的にとらえている。
- A層とD層の児童の差が大きくみられるのは、好きな授業では「国語、社会、算数、総合的な学習の時間」、わかる授業では「国語、社会、算数、音楽、総合的な学習の時間、学級活動」であり、学力との関連が深い。
- 好きな授業、わかる授業に関して、「図画工作、体育」については、A層とD層の児童の差があまりみられない。

Ⅲ-1 小学校

■「学習」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
4	①	自分一人でやってみる	83.0	89.7	82.8	76.9	67.5	22.2
	②	友だちに聞く	50.8	44.6	51.8	56.0	54.7	-10.1
	③	家の人に聞く	86.2	87.1	87.6	83.2	74.4	12.7
	④	学校の先生に聞く	40.2	39.6	38.6	43.6	50.3	-10.7
	⑤	学習塾や家庭教師の先生に聞く	18.3	15.8	16.3	24.2	32.8	-17.0
	⑥	そのまましておく	15.9	7.2	15.0	26.7	38.8	-31.6
5	①	授業のための予習をする	63.1	66.4	63.4	59.1	53.4	13.0
	②	授業で習ったことを復習する	83.9	91.0	85.6	73.7	59.7	31.3
	③	出された宿題をする	95.3	98.1	96.8	90.6	76.6	21.5
	④	家の人から言われなくても進んで勉強する	78.1	82.6	79.5	71.6	57.5	25.1
	⑤	自分がおもしろいと思ったことを、進んで勉強する	79.3	83.6	79.6	74.2	69.1	14.5
6	①	学校のある日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	51.7	61.6	50.5	43.0	39.1	22.5
	②	学校のない日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	48.1	56.2	46.7	42.3	38.8	17.4
7	①	1週間で学習塾に通っている日数(4日以上)	7.0	5.3	6.1	10.2	16.6	-11.3
	②	学校のある日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	17.4	21.0	15.0	17.8	23.1	-2.1
	③	学校のない日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	8.5	6.6	7.1	13.0	20.9	-14.3
8	①	あきらめずにいろいろな方法を考える	83.1	92.0	83.9	72.5	62.2	29.8
	②	新しく学習した漢字を普段の生活の中で使おうとする	77.3	85.6	77.9	67.7	57.2	28.4
	③	普段の生活の中で暗算をすることがある	82.5	90.5	84.1	71.8	56.3	34.2

- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」、「家の人に聞く」と答えた児童の割合が高い。また、「友だちに聞く」、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」と答えた割合は、D層の児童の方がA層の児童よりも高く、A層の生徒の方がD層の生徒よりも高い中学校の結果とは異なる傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」割合については、A層の児童の方が、D層の児童よりもかなり高い。また、「そのままにしておく」と答えた割合は、D層の児童の方が、A層の児童よりもかなり高く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。
- 児童の95.3%が、出された宿題をすると答えている。
- 「授業で習ったことを復習する」割合については、A層の児童の方がD層の児童よりも高く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。
- A層の児童はD層の児童に比べ、学校のある日、ない日にかかわらず、家で一人で勉強する時間が長く、学習塾や家庭教師に見てもらっている日数や時間は少ない。
- A層の児童の方がD層の児童よりも、解き方が分からなくてもあきらめずにいろいろな方法を考えたり、漢字や暗算を普段の生活の中で積極的に使ったりしている。

Ⅲ-1 小学校

■「生活」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
9	① 読書	1か月の読書数(4冊以上)	69.1	79.1	70.2	56.4	45.3	33.8
10	①	外で遊ぶ	87.2	84.7	88.6	87.9	82.2	2.5
	②	テレビを見たり、マンガを読んだりする	78.3	80.5	78.2	76.7	72.8	7.7
	③	テレビゲームやパソコンなどをする	59.6	58.1	59.5	61.3	61.6	-3.5
	④	本や新聞を読む	59.3	70.3	57.8	49.3	51.2	19.1
	⑤	勉強をする	74.5	82.5	74.1	67.7	54.1	28.4
	⑥	そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをする	43.0	55.4	41.8	31.3	29.7	25.7
	⑦	スポーツクラブやスポーツ少年団などの活動をする	48.9	48.8	49.8	48.1	39.4	9.4
	⑧	公民館や地域の活動に参加する	46.8	47.4	47.5	45.6	35.6	11.8
	⑨	美術館、図書館、博物館などに行く	37.4	38.9	35.8	38.3	45.0	-6.1
	⑩	家の手伝いをする	76.6	77.8	77.2	74.3	69.7	8.1
	⑪	家族と過ごしたり、出かけたりする	86.3	87.7	86.7	84.3	79.4	8.3
11	①	毎朝、自分で起きる	64.9	66.7	64.6	64.3	58.1	8.6
	②	朝ご飯を毎日食べる	95.9	98.8	96.6	92.3	82.2	16.6
	③	前日か朝に学校に持っていく物を確かめている	88.4	93.7	89.7	80.8	69.7	24.0
	④	身の回りのことは、できるだけ自分でする	84.7	90.0	86.1	76.9	66.6	23.4
	⑤	勉強する時間を自分で決めて実行している	63.4	67.0	63.8	58.9	53.8	13.2
	⑥	夜、決まった時間に寝る	62.0	65.9	61.5	58.0	61.3	4.6
	⑦	家族でいろいろな話をする	82.9	87.7	83.7	76.7	68.4	19.3
	⑧	テレビを見る時間など家の人とルールを決めている	62.0	68.9	60.9	56.9	54.1	14.8

- A層の児童の方がD層の児童よりも「1か月の読書数」が多く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。さらに、1か月に4冊以上読書をする
と答えた小学5年生は69.1%であったのに対し、中学2年生は33.6%であった。
- 学校以外での過ごし方については、外で遊んだり家族と過ごしたりすることが多く、
美術館や図書館、博物館などの文化施設に行ったり、そろばん、習字、ピアノなどの
お稽古ごとをしたりする割合が低い。
- 児童の約6割が、学校以外での過ごし方において、「テレビゲームやパソコンなど
をする」と答えている。
- また、学校以外での過ごし方において、A層の児童の方が、D層の児童よりも「勉
強をする」、「お稽古ごとをする」と答えた割合が25ポイント以上高い。
- 児童の95.9%が毎日朝食を食べていると答えており、昨年度と同様の割合である。
- 家での生活においては、「前日か朝に学校に持っていく物を確かめている」、「身の
回りのことは、できるだけ自分でする」、「家族でいろいろな話をする」、「朝ご飯を
毎日食べる」、「テレビを見る時間など家の人とルールを決めている」に関して、A
層とD層の差が大きく、学力との関連が深い。

Ⅲ-1 小学校

■「自分」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
12	①	物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある	91.5	95.7	92.9	85.1	74.4	21.3
	②	難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	79.0	83.5	80.0	72.0	66.3	17.2
	③	自分には、よいところがあると思う	74.7	79.8	75.1	68.4	62.8	17.0
	④	将来の夢や目標をもっている	88.8	90.8	90.0	84.8	76.6	14.2
	⑤	世の中のいろいろな出来事に関心がある	75.4	83.3	74.9	68.0	60.9	22.4
	⑥	学校のきまりを守っている	87.8	92.7	88.8	81.2	71.6	21.1
	⑦	友だちとの約束を守っている	93.4	96.5	94.7	88.5	75.3	21.2
	⑧	人が困っているときは、進んで助けている	82.0	85.9	83.1	76.5	66.3	19.6
	⑨	近所の人に会ったときは、あいさつをしている	92.2	95.0	93.1	88.3	78.4	16.6
	⑩	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	89.9	94.3	90.8	84.3	71.9	22.4
	⑪	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	94.3	97.5	95.2	90.2	78.1	19.4
	⑫	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.2	96.1	93.1	87.0	77.5	18.6

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「友だちとの約束を守っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」、「物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある」と答えた児童は90%以上であり、昨年度とほぼ同じ結果である。
- 「授業」「学習」「生活」の項目と比較すると、「自分」に関することの質問内容の肯定的な答えは、A層とD層の差が大きいものが多く、学力との関連が深い。
- 他の質問内容と比較すると「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」、「自分には、よいところがあると思う」、「世の中のいろいろな出来事に関心がある」に関して肯定的に答える割合が低い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。

※ 「全県」は、各問いに対して肯定的な回答をした県全体の児童の割合を表している。また、A層・B層・C層・D層とは、学力検査において、全教科の最高到達度と最低到達度の差を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、学力検査で分けられた各層の児童が、各質問内容に対して肯定的な回答をした人数の割合を示したものである。

※ A層(成績上位層)－D層(成績下位層)のポイントが大きいほど、質問内容は学力と関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■「授業」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
1	好きな授業	① 国語	66.0	71.5	67.9	66.0	51.6	19.9
		② 社会	67.0	79.6	71.8	61.7	53.4	26.2
		③ 数学	56.8	77.7	63.1	48.4	38.6	39.1
		④ 理科	70.7	83.3	73.8	65.6	62.3	21.0
		⑤ 音楽	71.8	74.5	73.5	71.0	64.8	9.7
		⑥ 美術	71.6	69.3	72.0	72.3	70.1	-0.8
		⑦ 保健体育	81.6	77.0	82.0	83.5	79.1	-2.1
		⑧ 技術・家庭	78.9	80.4	80.3	79.1	70.8	9.6
		⑨ 英語	60.4	83.3	68.7	51.5	34.2	49.1
		⑩ 総合的な学習の時間	79.5	79.9	81.8	79.6	69.9	10.0
		⑪ 道徳	64.8	64.7	64.8	65.6	61.6	3.1
		⑫ 学級活動	86.4	87.7	88.2	86.7	77.0	10.7
2	授業理解	① 国語	86.6	94.9	91.1	84.6	66.3	28.6
		② 社会	76.4	90.3	81.2	70.9	61.8	28.5
		③ 数学	70.4	91.6	77.7	61.8	49.5	42.1
		④ 理科	78.3	93.5	82.2	73.2	63.8	29.7
		⑤ 音楽	80.7	85.7	82.4	79.6	72.3	13.4
		⑥ 美術	84.7	84.6	85.2	85.3	80.1	4.5
		⑦ 保健体育	90.4	91.2	91.0	91.0	84.6	6.6
		⑧ 技術・家庭	83.4	87.3	85.7	82.8	72.4	14.9
		⑨ 英語	65.4	91.0	74.8	55.6	35.3	55.7
		⑩ 総合的な学習の時間	88.8	92.0	90.9	88.4	77.9	14.1
		⑪ 道徳	86.8	88.8	88.4	86.9	77.9	10.9
		⑫ 学級活動	93.1	95.3	94.6	93.2	83.7	11.6
3	わかりやすい授業	① 先生が一人で学級のみんなを教える授業	87.7	97.1	91.8	83.7	75.7	21.4
		② 先生が何人かで学級のみんなをいっしょに教える授業	88.7	93.5	91.6	87.0	78.5	15.0
		③ 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える授業	92.4	96.7	94.5	91.6	82.1	14.6
		④ コンピュータを使った授業	83.8	88.1	85.7	82.6	75.4	12.7
		⑤ 学校の先生以外の人(ALTやゲストティーチャー等)が教える授業	78.8	85.2	82.8	76.4	64.2	21.0

- 本県の中学2年生が最も好きな授業、わかる授業は学級活動であり、授業形態では「学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える」形態を最も肯定的にとらえており、昨年度と同様の傾向がみられる。
- A層とD層の生徒の差が大きくみられるのは、好きな授業では「国語、社会、数学、理科、英語」、わかる授業においても「国語、社会、数学、理科、英語」であり、学力との関連が深い。また、「数学、英語の授業が好き」「数学、英語の授業がわかる」という質問について、A層とD層の差が特に大きく、学力との関連がかなり深い。
- 好きな授業、わかる授業に関して、「美術、保健体育」については、A層とD層の生徒の差があまりみられない。

Ⅲ-2 中学校

■「学習」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
4	①	自分一人でやってみる	82.6	94.2	89.2	77.7	62.3	31.9
	②	友だちに聞く	67.5	61.5	70.3	68.6	59.9	1.6
	③	家の人に聞く	65.2	69.6	69.2	62.9	52.7	16.9
	④	学校の先生に聞く	33.6	41.1	35.5	30.2	29.6	11.5
	⑤	学習塾や家庭教師の先生に聞く	24.2	28.2	25.3	23.0	19.8	8.4
	⑥	そのまましておく	32.0	12.6	25.6	40.3	49.0	-36.4
5	①	授業のための予習をする	38.7	41.6	38.3	38.2	38.6	3.0
	②	授業で習ったことを復習する	86.4	91.2	92.5	84.2	64.8	26.4
	③	出された宿題をする	95.0	98.5	97.8	94.4	82.0	16.5
	④	家の人から言われなくても進んで勉強する	71.2	78.1	76.3	68.3	54.1	24.0
	⑤	自分がおもしろいと思ったことを、進んで勉強する	74.1	81.9	77.0	71.3	63.8	18.1
6	①	学校のある日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	63.9	73.6	70.3	59.7	43.7	29.9
	②	学校のない日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	73.2	82.1	80.4	69.9	47.9	34.2
7	①	1週間で学習塾に通っている日数(4日以上)	2.6	3.7	2.0	2.3	4.2	-0.5
	②	学校のある日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	26.5	35.9	28.3	24.1	16.6	19.3
	③	学校のない日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	8.5	11.8	8.6	7.6	7.4	4.4
8	①	あきらめずにいろいろな方法を考える	71.8	93.5	82.0	62.2	42.8	50.7
	②	新しく学習した漢字を実際の生活の中で使おうとする	61.0	73.5	65.6	56.1	46.9	26.6
	③	普段の生活の中で暗算をすることがある	73.3	88.1	81.9	66.9	46.5	41.6

- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」と答えた生徒の割合が高い。また、「友だちに聞く」、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」と答えた割合は、A層の方がD層の生徒よりも高く、D層の児童の方がA層の児童よりも答えた割合の高い小学校の結果とは異なる傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」割合については、A層の生徒の方がD層の生徒より高い。また、「そのままにしておく」と答えた割合は、D層の生徒の方が、A層の生徒よりも多く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」と答えた生徒の割合が、他の項目に比べて低い。
- 生徒の95.0%が、「出された宿題をする」と答えており、昨年度と同様の割合である。
- 「授業で習ったことを復習する」割合については、A層の生徒の方がD層の生徒よりも高く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。
- A層の生徒はD層の生徒に比べ、学校のある日、ない日にかかわらず、家で一人で勉強する時間が長く、学力との関連が深い。
- わからないとき、「あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた割合は、A層の生徒の方がD層の生徒よりもかなり高く、学力との関連がかなり深い。
- A層の生徒の方がD層の生徒よりも、「新しく学習した漢字を実際の生活の中で使おうとする」「普段の生活の中で、暗算をすることがある」と答えた割合がかなり高く、学力との関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■「生活」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
9	① 読書	1か月の読書数(4冊以上)	33.6	43.5	35.6	30.3	26.6	16.9
10	① 学校以外での過ごし方	① 外で遊ぶ	74.2	59.9	72.5	79.2	80.4	-20.5
		② テレビを見たりマンガを読んだりする	86.9	87.9	89.1	85.7	81.7	6.2
		③ テレビゲームやパソコンなどをする	64.9	67.4	67.0	63.8	58.2	9.2
		④ 本や新聞を読む	46.0	60.9	47.7	40.9	40.2	20.7
		⑤ 勉強をする	60.3	72.1	66.2	54.7	44.1	28.0
		⑥ そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをする	20.7	30.5	23.7	17.1	10.9	19.6
		⑦ スポーツクラブなどの活動をする	49.5	44.8	50.1	51.1	46.9	-2.1
		⑧ 公民館や地域の活動に参加する	16.8	15.0	16.4	17.3	19.0	-4.0
		⑨ 美術館、図書館、博物館などに行く	13.2	17.2	12.5	11.8	16.3	0.9
		⑩ 家の手伝いをする	61.6	62.8	62.5	60.9	59.4	3.4
		⑪ 家族と過ごしたり、出かけたりする	75.3	79.3	76.6	74.0	70.5	8.8
11	① 家での生活	① 毎朝、自分で起きる	65.5	65.3	65.4	66.3	62.8	2.5
		② 朝ご飯を毎日食べる	95.3	98.5	97.4	94.1	87.0	11.5
		③ 前日か朝に学校に持って行く物を確かめている	88.8	95.6	92.7	87.0	72.2	23.4
		④ 身の回りのことは、できるだけ自分でしている	85.1	88.9	88.3	83.5	73.7	15.2
		⑤ 勉強する時間を自分で決めて実行している	55.7	62.5	59.3	52.7	45.3	17.2
		⑥ 夜、決まった時間に寝る	45.8	55.6	49.0	41.3	38.6	17.0
		⑦ 家族でいろいろな話をする	75.9	84.1	79.2	73.4	62.9	21.2
		⑧ テレビを見る時間など家の人とルールを決めている	36.9	46.5	38.8	33.1	32.1	14.4

- A層の生徒の方がD層の生徒よりも「1か月の読書数」が多く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。さらに、1か月に4冊以上読書をする
と答えた中学2年生は33.6%であったのに対し、小学5年生は69.1%であった。
- 学校以外での過ごし方については、生徒は、テレビを見たり漫画を読んだりする
ことが多く、美術館や図書館、博物館などの文化施設に行ったり、公民館や地域の活動
に参加したり、そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをしたりする割合が、かな
り低い。
- D層の生徒の方がA層の生徒よりも学校以外での過ごし方において、「外で遊ぶ」
と答えた割合が、かなり高く、「本や新聞を読む」、「勉強をする」と答えた割合が、
かなり低い。
- 生徒の95.3%が、毎日朝食を食べていると答えており、昨年度と同様の割合である。
- 家での生活においては、「前日か朝に学校に持って行く物を確かめている」、「家族
でいろいろな話をする」、「勉強する時間を自分で決めて実行している」、「夜、決まった
時間に寝る」に関して、A層とD層の差が大きく、学力との関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■「自分」に関すること

設 問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
12	①	物事を最後までやりとげてうれしかったことがある	91.8	96.2	94.3	91.0	79.9	16.3
	②	難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	64.3	73.4	67.3	61.1	54.0	19.4
	③	自分にはよいところがあると思う	61.1	71.9	62.9	57.9	52.8	19.1
	④	将来の夢や目標をもっている	73.2	77.7	73.2	73.4	67.1	10.6
	⑤	世の中のいろいろな出来事に関心がある	66.0	79.5	71.2	59.9	52.8	26.7
	⑥	学校のきまりを守っている	88.5	94.6	92.1	86.6	74.0	20.6
	⑦	友だちとの約束を守っている	84.6	96.8	96.6	94.0	86.3	10.5
	⑧	人が困っているときは、進んで助けている	75.9	80.6	79.0	73.5	67.2	13.4
	⑨	近所の人に出会ったときは、あいさつをしている	91.2	93.5	92.7	90.6	84.7	8.8
	⑩	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	92.2	97.3	94.6	90.8	81.9	15.4
	⑪	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	94.3	95.8	95.7	94.0	87.8	8.0
	⑫	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.8	96.1	95.0	91.7	85.0	11.1

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」、「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」、「物事を最後までやりとげてうれしかったことがある」と答えた生徒は90%以上である。
- 「友だちとの約束を守っている」に関して、昨年度95.2%から10.6ポイント減少している。
- 他の質問内容と比較すると「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」、「自分にはよいところがあると思う」、「世の中のいろいろな出来事に関心がある」に関して肯定的に答える割合が低い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。
- 「自分にはよいところがあると思う」の割合が他の質問内容に比べてかなり低く、小学校の74.7%より10.4ポイント低い。

※ 「全県」は、各問いに対して肯定的な回答をした県全体の生徒の割合を表している。また、A層・B層・C層・D層とは、学力検査において、全教科の最高到達度と最低到達度の差を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、学力検査で分けられた各層の生徒が、各質問内容に対して肯定的な回答をした人数の割を示したものである。

※ A層(成績上位層)－D層(成績下位層)のポイントが大きいほど、質問内容は学力と関連が深い。

数値についてもっと知りたい！

表に出てくる数値はどうやって求めているの？

到達度

- ・・・各所属の児童生徒が正答及び準正答である問題数の割合を示したもの
- = $\frac{\text{できた問題数}}{\text{全問題数}} \times 100$ (%)
(正答+準正答)

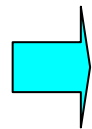
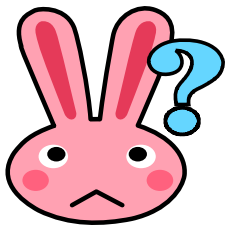
平均到達度

- ・・・児童生徒の到達度を平均した数値を示したもの
- = $\frac{\text{到達度の合計}}{\text{児童（生徒）数}} \times 100$ (%)

目標値

- ・・・各教科、問題ごとに設定されためざす値（設定通過率）の平均を示したもの
- = $\frac{\text{問題ごとの設定通過率の合計}}{\text{全問題数}} \times 100$ (%)

設定通過率って？



- 1問ごとに設定されています。
- 全受検者数のうち、その問いができた人数の割合をめざす値として設定しています。
- 各教科の問題の特性に応じて決められています。

達成率

- ・・・到達度が目標値に達している児童生徒の割合を示したもの
- = $\frac{\text{到達度が目標値に達している児童（生徒）数}}{\text{全児童（生徒）数}} \times 100$ (%)

設問別通過率

- ・・・設問ごとにできた児童生徒の割合を示したもの
- = $\frac{\text{各設問ができた児童（生徒）数}}{\text{全児童（生徒）数}} \times 100$ (%)

A層～D層についてもっと知りたい！

A層～D層の値って何のためにあるの？

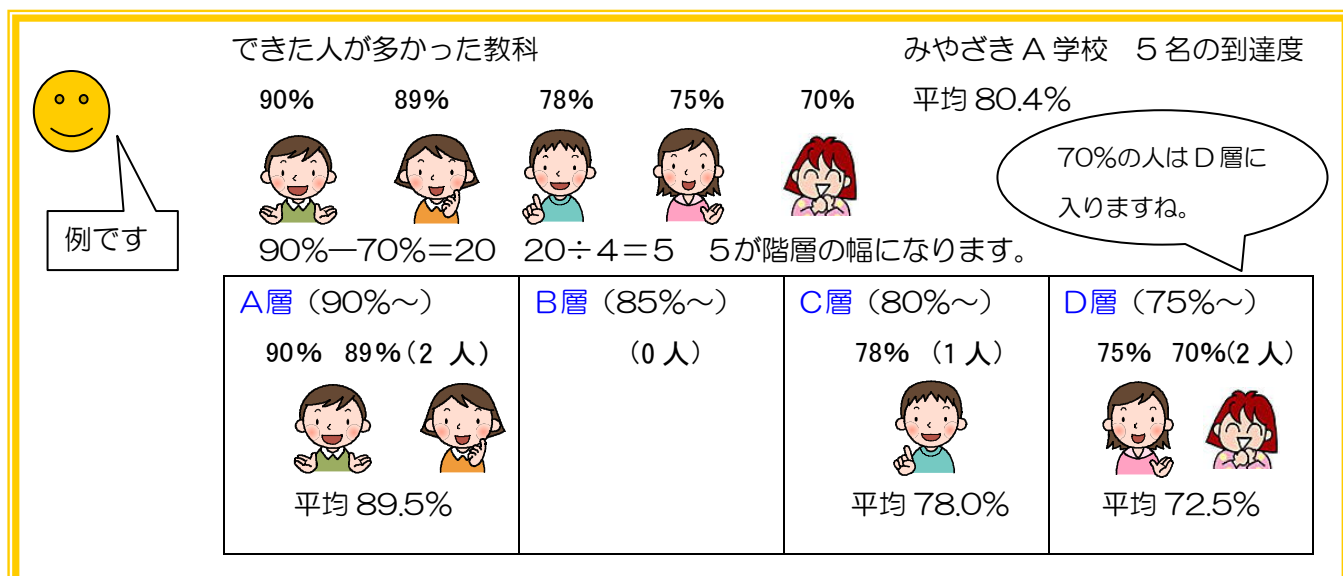
みやざき小中学校学力調査は、教科によって問題の数や内容が違います。また、結果は得点ではなく到達度(できた割合%)で表しています。ですから、結果が出たときに、問題ごとの到達度や個人差の大きい問題はどれかなど、集団や個人で比べるための目印となるよう示しています。

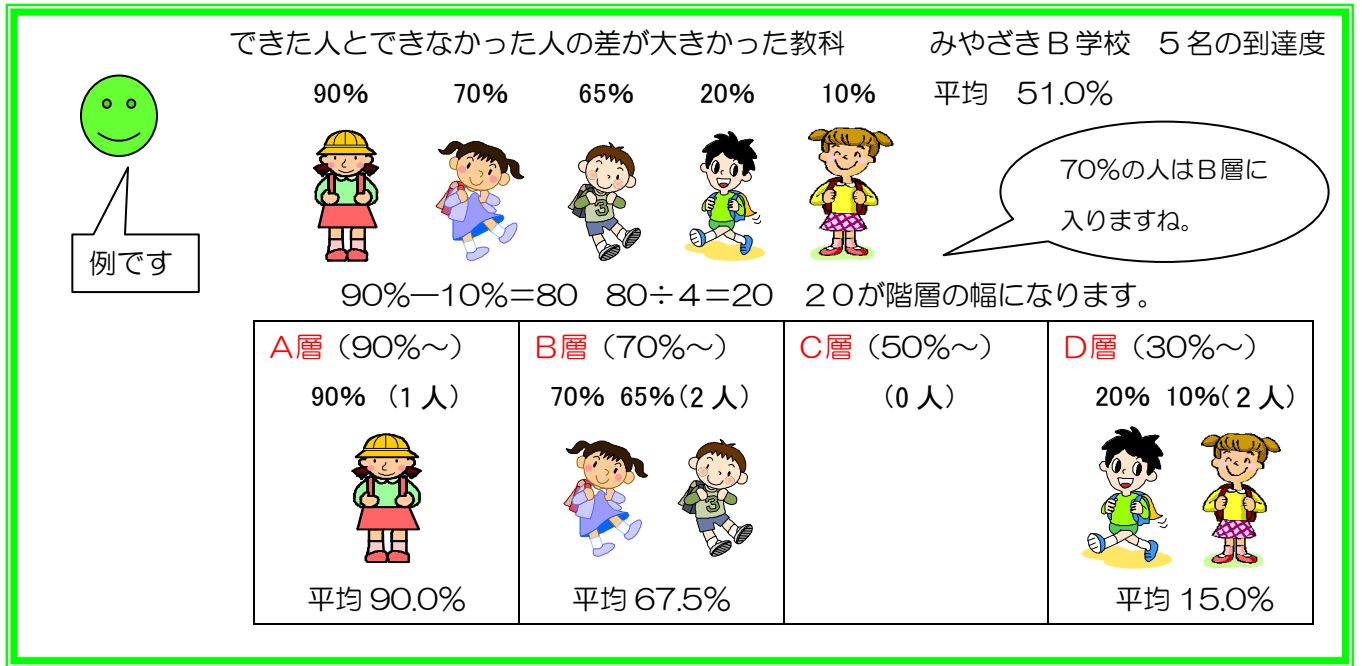
- A層～D層の値は、同じ教科や教科どうしにおける定着の違いを比べるための目印になるものです。
- 全教科のA層～D層の結果と、意識調査の結果とを比較することで、「このテストができた人はこんな意識をもって生活している傾向がある。」等、学力と意識との関連を見つけるための参考にすることもできます。

A層～D層ってどうやって求めているの？

簡潔に言うと、最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を上位から4等分して、A～Dとしています。

- 教科ごとに個人の到達度を出して、集団ごとに最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を求めます。
- 求めた範囲を4等分して、階層を決めます。最も高い層から順に、ABCD層となります。





A層～D層は、集団や教科ごとに、個人の到達度を使ったクラス分けのようなものです。単純に人数で均等に分けたものではありません。

A層～D層の分け方はいくつあるの？

教科ごとと、全教科を合わせた結果で、A層～D層をそれぞれ求めています。つまり、下の表のように、小学校は5通り、中学校は6通りあります。

		A層	B層	C層	D層
小学校	国語				
	社会				
	算数				
	理科				
	4教科				

教科ごとの分け方は、教科ごとの全体概要や設問別通過率で利用されています。

		A層	B層	C層	D層
中学校	国語				
	社会				
	数学				
	理科				
	英語				
	5教科				

全教科の分け方は、意識調査の結果分析で利用されています。

A層～D層の数値でどんなことがわかるの？

全体概要【資料1】では

県全体の各層の中に、何%の児童生徒がいるのかがわかります。

教科別概要【資料2】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人ができたのか（平均到達度や達成率）がわかります。

設問別解答状況一覧【資料3】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人がその問題ができたのか（通過率）がわかります。また、例えばA層とD層の中で、できた人の割合の差がわかります。

個人の成績表【資料7】では

個人の到達度が、県全体のA層～D層のどの階層に入っているかがわかります。

※印の意味 A層…◎（よくできる） B層…○（できる）
 C層…△（ややできる） D層…▲（がんばろう）

どんなところを見て分析すれば、何がわかるの？

【資料1では】

- 県全体のA層～D層に、何%の児童生徒がいるかによって、できた教科とできなかった教科がわかります。
- A層～D層の割合を、教科で比べると、教科によって、上位層と下位層のどちらが多い傾向にあるのかがわかります。

【資料2では】

- 観点・領域・分類の項目において、平均到達度や達成率を比べると、教科ごとに、できた（できなかった）観点・領域・分類がわかります。

【資料3では】

- 各設問を通過した割合（通過率）が、高い（低い）ことで、できた問題（できなかった問題）がわかります。
- A層とD層の差が大きい問題は、できた児童生徒とできなかった児童生徒の差が大きい傾向の問題であることがわかります。

【資料8では】

- 授業、学習、生活、自分に関する意識調査において、A層とD層の差が大きい設問は、学力調査の結果と関連が深いことがわかります。